

教友

第95号

目次

未来を拓く埼玉教育
私の母校への思いと教育の現状 日吉 亨……1

新しい教育学部に向けて……戸部 秀之……2

教員養成の歩みを通して
未来を創るかけがえのない子供たちのために
松澤 勇治……3

4

模範個人面接を通して・模範個人面接を受けて……5

教授合格者から後輩へのアドバイス……6

キャンパスライフ サークル紹介……8

硬式野球部・体育会男子バスケットボール部
埼玉大学合唱団・裏千家茶道文化研究部
埼玉大学合奏団・ゼミ紹介……10

キャンパスライフ ゼミ紹介……10

心理・教育実践学専修 堀田香織研究室
社会専修 小林聡研究室
同窓生の広場……11

11

卒業五X周年同窓会報告……23

令和六年度教友会事業報告……23

令和六年度定期総会報告……24

埼玉大学ホームカミングデー二〇二四……25

本年度の教友会事業より
「埼玉大学創基百五十周年記念年表」寄贈……26

卒業五X周年同窓会開催等案内……28

令和六年度教友会役員名簿・学年理事名簿……30

事務局より・編集後記……32



未来を拓く埼玉教育 私の母校への思いと教育の現状

埼玉県教育委員会教育長 日吉 亨

1 はじめに

教友会員の皆様こんにちは。埼玉県教育委員会教育長の日吉亨と申します。この度は埼玉大学教育学部同窓会誌「教友第九十五号」の巻頭言を執筆する機会をいただき、誠にありがとうございます。母校の埼玉大学教育学部卒業生の一員として、このような形で関わることができ、大変光栄に思います。

2 私と埼玉大学

私は昭和六十二年三月に小学校課程国語専修を卒業した後、埼玉県立高校教員として採用され、県立浦和高等学校長など県公立高校の教育現場と県教育委員会で経験を重ね現在に至ります。大学時代は、講義だけでなくサークル活動にも打ち込みました。講義では市

毛勝雄教授の実践的な講義が印象に残っており、今でも講義ノートやご著書を読み返すことがあります。埼玉大学で得た知識や経験は今日の私の基盤となっています。

3 教育の現状と動向

さて、埼玉県の教育現場の現状と最近の動向についてお話しします。令和二年から全国的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響を与えました。現場にも大きな影響を与えました。全国一斉の休校から感染予防対策など、子供たちにとっては当たり前であった日常生活が一変しました。令和五年には感染症法の五類に位置づけられました。現在は子供の体力低下など新たな教育課題も生じています。他方、大きく進んだ面もあります。コンピュータやタブレットな

4 埼玉教育の未来

令和六年に埼玉県では「第四期埼玉県教育振興基本計画」を策定しました。将来の予測が困難な時代において、一人一人が豊かで幸せな人生を送るとともに、持続的に発展する社会の創り手となるためには、教育の使命は極めて重要です。計画は基本理念を「豊かな学びで 未来を拓(ひら)く埼玉教育」としました。

さらに、この理念をふまえ「誰一人取り残されない共生社会の実現に向けた教育の推進」「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」の二点を計画全体に共通する視点として設けまし

た。一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する共生社会の実現に向けた教育を推進していくことが必要です。また今後、社会全体のデジタル化が加速していく中で、教育の分野でも、教育の質を向上させるためには、積極的に活用していくことが不可欠です。

未来の教育に向け、私たちはこのようなビジョンを持ち、次世代の育成を積極的に進めてまいります。教育学部の学生の皆様には、これから社会の様々な分野で活躍されることを願っております。母校で培った知識や経験を活かし、教育現場や社会全体に貢献していただければ幸いです。

5 むすびに

埼玉大学教育学部の教育がさらに充実するとともに、学生、同窓生の皆様のご健勝と教友会活動がますます発展することを心より祈念しております。今後とも、埼玉県教育行政へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(昭和六十二年卒)



新しい教育学部に向けて

埼玉大学教育学部長 戸部 秀之

令和六年四月より教育学部長を拝命いたしました戸部秀之です。教友会の皆様には、力量ある教員の養成という本学部のミッションをご理解いただき、教員採用試験に向けたオンライン教材のご提供や模擬個人面接をはじめ、多くのご支援を賜っておりますこと、心から御礼申し上げます。

私は一九九九年に本学に赴任し、学校保健・健康教育を専門として教鞭をとってきました。子供たちがよく学び、夢に向かって歩み続けるための土台づくりを専門としています。よく眠り、日々の活力を高めて夢の実現に向けて歩み続ける子供たちの姿を見たくて教育研究に力を注いできました。子供も大人もお年寄りも、誰もが「なりたい自分・ありたい自分」を追い求めているのだと私は信じています。学びはその原動力になります。子供たちの自己実現に深く関わる教員を育てているのが私たち教育学部であることを改めて自覚しているとこそです。

「大変だけど、やりがいがあります！」

埼玉大学教育学部を巣立つて学校の先生になった教え子たちから聞く言葉で、これほどうれしい言葉はありません。そこには、子供の将来のために打ち込む姿、子供と共に成長する姿、自身の自己実現に向けて歩み続ける姿を感じ取れるからです。埼玉大学教育学部は、このような先生を育てる学部であると私は胸を張って言うことができます。

しかし、マスクミでシャワーのように流れる学校現場のイメージはどうでしょうか。多忙でブラツクな職場、難しい教育課題、教員不足、等々。もちろん否定はできませんが、そのイメージが学校教育全体や教師のやりがいにまでも暗い影を落とすのであれば残念なことです。子供たちが先生と関わりながら日々成長する、希望に満ちた本来の学校の姿をしっかりと発信することが、大学、学校現場、教育行政とが力を合わせて進めなければならぬ重要課題であると考えています。

令和八年度スタート、新しい教育学部にご期待を
多様な人々が生きる社会におい

て、誰一人取り残さない持続可能な社会、ダイバーシティ&インクルージョンの実現。子供たちが、そのような社会の担い手として育つよう指導する力のある教員の養成をめざして、現在、組織再編とカリキュラム改革を進めています。**入学定員減・きめ細やかな指導**—入学定員が六十名減りますが、それを跳ね返すきめ細やかな指導を進め、教員就職率の向上を図ります。

教科教育コースと学校教育コースに再編

現行では「小学校コース」「中学校コース」等からなる学校教育教員養成課程を、新たに「教科教育コース」と「学校教育コース」に再編します。

「教科教育コース」はいわゆる教科に相当する十の専修からなり、小学校と中学校の両方の教員免許取得を必須とし、教科に強い教員を育てます。

「学校教育コース」は小学校教員免許状の取得を必須とし、現代的な教育課題、ICT利活用、心の問題、特別支援、幼保小連携などの専門分野を深めます。

これまで以上に教科・専門の強みを育てる教育学部に変わります。**「教職キャリア科目」の充実**

コース・専修の学びを、専門性を深める「縦糸」とすると、学部学生が誰でも履修できる「教職キャリア科目」は、教師としての幅広い総合的な力を育成する「横糸」です。教職キャリア科目に新たな科目群を新設するなど横糸も充実し、縦糸と横糸で教師としての総合力を織りなす教育を行います。

新設する科目群としては、「共生ダイバーシティ科目群」、「領域横断探究科目群」等です。また、教員の教育体制に現代的教育課題部門、講座横断教員を新設し、教育組織体制を整備します。

学部と教職大学院との接続プログラム構想

教員養成の高度化を図るため、学部と教職大学院間のカリキュラムの接続を図る構想を進めています。教職大学院に進学意欲のある学生が学部段階から大学院の授業を履修し、六年間を見通して教員としての学びを深めます。

結びに、教育学部の自慢は全国から集まる学生たちです。個性豊かで自分を持ち、目標に向けて真剣に打ち込み、時に悩み立ち止まる。それでもまた歩き出す。そういった魅力あふれる学生たちと共に、教育学部はこれからも進化を続けます。

是非、新しい教育学部を応援してください。



教員養成の歩みを通して 未来を創るかけがえのない子供たちのために

会長 松澤勇治

「みんなの学校(まなびや) 教育史編さんと学校アーカイブズ」これは、埼玉県立文書館が、令和六年六月一日から九月一日まで開催した企画展のタイトルで、お出かけになられた方も多かったものと思われまます。

アーカイブズとは「記録資料」のことです。昨年、近代的な学校制度を定めた学制の施行から百五十年目を迎え、さらに本年、教員を養成するための学校である埼玉県師範学校(現・埼玉大学教育学部)の設置から百五十年を迎える節目となるこの機会に、江戸時代から戦後にかけての埼玉における学校教育に注目し、県民が学び舎で、何をどのように学んできたのかが分かるよう、所蔵の資料や解説のパネル、映像等で紹介されています。

私が一番関心を持ったのは、やはり、本県における教員養成に関する資料でした。明治六年に改正局を設けて教員養成を始め、翌年には埼玉県師範学校と改称、同九年には、熊谷県廃止により、同じく教員養成を行っていた暢発(ちようはつ)学校を分校としました。埼玉新聞に、七月三十一日から八月二十八日まで五回に分けて、この企画展の内容について当館担当者文章を載せています。同校の校則と寄宿舎の舎則について、次のような興味深い内容が記されています。

校則の冒頭には、人としてあるべき姿を示すために正しい行動をし、礼儀を尽くして軽薄にならず、他人と関わる時は約束を守り、義務を果たすことが当然であると記されています。また舎則には、部屋を念入りに掃除して清潔にすべきと書かれています。指導に従わない者や怠惰な者は退学にするという定めでした。

教員は、人びとの手本となるよう育てられていたことがうかがえます。

初代文部大臣であった森有礼は、公教育形成の要(かなめ)は、教

員の資質にあるとして、師範学校の整備に力を注ぎました。そして、明治十九年に公布された師範学校令の第一条に、「生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス」という但し書きを付けました。この「順良信愛威重」は、後の師範教育令により「徳性」と表現され、我が国教員に必要な資質と見なされました。師範学校では、この気質育成のために、全員寄宿舎制の下、軍隊式教育や訓練が導入されたと言われています。

戦後の教育改革は、これまでの師範学校の果たした役割を認めつつも、専門的な教員養成機関として、新制大学の発足や教育職員免許法によって、抜本的に改革されました。そして、望ましい教員の資質や大学での教員養成の在り方については、時代の経過とともに様々な議論や制度改革がなされ、今日に至っています。

「子供は国の宝、未来を創るかけがえのない存在」であり、変化の激しい社会をたくましく生き抜く子供を育む力量のある質の高い教師を養成するのが教育学部です。家庭環境、生育歴、親子関係などそれぞれ異なる子供たちとの運命的な出会いがあり、学校という限られた空間・時間の中で、教師は一人一人の子供の成長・発達に向けて最善を尽くします。

本学部で学び、これまで子供の重要な人的環境としての役割を自覚し、教育的愛情に基づく信頼関係の中で教職の道を精励してきた者の一人として、教員養成に特化した本学部の更なる発展を願ってやみません。

おわりに、本年度末をもって、会長職を退任させていただきます。二期四年間(副会長職を含めると八年間)、事務局の移転や業務改善の視点からの各種事業の見直し(寄付講座の発展的解消に伴う模擬個人面接の充実、会報「教友」と「学友」の合本化及びホームページにおける全面公開に向けた取組等)も、皆様のご理解・ご協力のおかげで推進することができました。

今後、本会が、教育学部同窓会として、これまで以上に学部との連携・強化を図りながら、会員相互の親睦が一層深められますよう、会の益々の発展をご祈念申し上げます。大変お世話になりました。

(昭和五十年卒)

教職支援委員会から

教採合格に向けての主な取組内容及び 教職支援室の積極的な活用

一 教員採用試験の全体の動向

教員採用は、比較的長期にわたる採用増加期が止まりつつあり、自治体により採用数の増減が異なる傾向にあります。例えば埼玉県では、全校種を合わせて一七五五名となり、昨年度より十九名増となっておりますが、さいたま市は一九七名となり、昨年度より二〇三名減となっております。

全国的な傾向として、小学校教員採用倍率の低下が顕著となっております(本年度埼玉県は一・七倍、さいたま市は三・六倍)。学生にとっては、比較的教員になりやすい一面がある一方で、今後の教育界全体を考えると、教員の質の低下が懸念されます。

このような状況下で、一部の自治体では試験日を例年と比べて早期に実施したり、三年生からの一部受験を実施したりするなど、各自治体は優秀な教員の確保に力を注いでいます。

教職支援委員会ではこのような動向を踏まえ、採用試験を受ける学生をサポートする様々な取組を行っており、教友会の協力も多く

いただいています。

二 教友会からの支援

教員採用試験対策「模擬個人面接」七月十六～十八日の三日間にわたり、ご指導をいただくことができました。面接では小・中学校の教員を目指す学生だけではなく、養護教諭や幼稚園教諭・保育士を目指す学生にも幅広く対応していただき、本番を想定した面接指導を通して、多くのご示唆をいただきました。

「教員採用試験対策DVD教材」

教友会から教職を目指す皆さん(終身会員登録をしている方)のために、教員採用試験対策DVD教材をオンラインで視聴できるようにしていただきました。全部で二〇一コマの内容が視聴できます。

〇視聴できるDVDの内容

- ・実力錬成教職教養(二十コマ)
- ・教職教養シリーズ(五コマ)
- ・小学校全科(二十コマ)
- ・養護教諭(十コマ)
- ・特別支援教育(十コマ)
- ・埼玉エリア対策(二コマ)
- ・教職面接DVD講座(二十コマ)
- ・教職論文DVD講座(十四コマ)

三 来年度の教員採用試験対策(予定)

教職支援委員会では、教職支援セミナーとして、一斉指導やクラス別学習のほか、前述の教友会「模擬個人面接」や個別相談など、教員を希望する学生を支援する取組を充実させてきました。これらの教職支援に関する取組への出席率・活用率が教員採用試験の合格を左右するところとなってきています。

以下に、来年度の教員採用試験に向けた取組(予定)を記します。

- 〇四～五月 各自自治体の教員採用試験要項説明会の実施
- 〇四～七月 教職指導員による前期教職支援セミナーの開催
- 〇四～七月 教師力向上ケーススタディ演習Ⅰ
- 〇七月中旬 教友会の面接員による「模擬個人面接」の実施
- 〇七月下旬～八月中旬 二次試験対策のための個別指導
- 〇十～二月 教師力向上ケーススタディ演習Ⅱ、教師基礎力養成演習
- 〇十～二月 教職指導員による後期教職支援セミナーの開催
- 〇十一月～十二月 埼玉県・さいたま市他の採用試験説明会や都道府県別指導の実施
- 〇二月～ 外部講師による対策講座及び一次試験対策模擬テスト等の実施

四 教職支援セミナーへの参加

教職支援委員会では、論文・面接・実技試験対策等の教職支援セミナーを開催し、教職を志望する学生を支援しています。令和七年度教員採用選考試験においても、これまでと同様、セミナーへの参加回数が多い学生ほど合格率が高い結果となっています。これは、教育及び教職に関する豊かな知識と経験を有する教育実践総合センター教員や教職指導員等の指導のもと、学友と切磋琢磨し、学びを積み重ねてきた成果です。

教職支援セミナーに積極的に参加し、早い時期から継続的に準備をしておくことが重要です。

五 教職支援室の積極的な活用

教職支援の窓口としてC棟二階に「教職支援室」を開設しています。教職支援室では、全国の教員採用試験の情報収集と提供、教職支援室スタッフによる相談などを行っております。また、各自自治体の過去の試験問題集、各教科等の指導書や教科書、各種教育情報誌などの閲覧や貸し出しも行っています。

教職支援室は教職を目指す学生のニーズに沿ったサポートを心がけています。積極的に活用しましょう。まずは気軽に足を運んでください。

模擬個人面接を通して

～面接指導員からの、ワンポイントアドバイス～

教友会では、学生支援事業の一 つとして、教友会推薦の面接員による「模擬個人面接」を、教員採用二次試験前に実施しています。本年度は、七月十六・十七・十八の三日間行いました。

模擬個人面接終了後、各面接員から出されたアドバイスの主な内容は、次のとおりです。

○「入室から退室まで、すべて見られている」という自覚をもち、清潔感のある服装・身だしなみ・節度のある振る舞いに気を付けたい。

○質問内容に正対して、簡潔・明瞭に自分の言葉で答えたい。

○自分が受験する自治体の求める教師像や教育施策についての理解を深めるとともに、なぜその自治体を志望するのかの理由を事前に明確にしておきたい。

○知らないことは答えられない。また、あいまいな理解では、自信をもって答えることはできない。特に、教育時事に関する内容（各都道府県の教育振興基本計画等）については、その内容だけではなく、ねらいや実施上の課題等についても自分の言葉

で答えられるようにしたい。

○特別支援教育関係については、校種を超えて出題される傾向がある。「インクルーシブ教育」「支援学習」など基本的な内容についての理解を深めたい。

○保育士志望者でも、地方公務員法の基本的な内容の理解に努めたい（公務員になる意識）。

○大学推薦者は一次試験を免除されているとはいえ、教職教養・教育関係法規等、基本的な内容の理解に努めておきたい。

○限られた時間の中でも、教師としての適性や自分のよさ等を最大限アピールできるようにしましょう。

教友会では、教職をめざす学生への支援として、教員採用試験対策DVD「時事通信社版」教職オンライン講座」を購入し、会員（終身会員）が視聴できるようにしています。こちらも教員採用試験対策にご活用ください。

模擬個人面接を受けて

～実際の面接で役立ったこと等～

言語文化専修英語分野 新津 葉月

私は模擬個人面接の三日間全てに参加しました。面接試験の対策をするために最も大切なことは、様々な人と繰り返し練習をし、面接の雰囲気になれることだと思います。私も教職セミナーのクラス別学習に参加したり、友人と集まって練習したりしました。その中でも、最も本番に近い形で練習できたのが教友会の先生方による模擬個人面接でした。

言語文化専修英語分野 小林 暖奈

私が、模擬個人面接を受けて教員採用試験に役立ったことは二つあります。

一つ目は、教員採用試験本番のように緊張感をもって練習することができたことです。模擬個人面接は、面接官をしてくださる先生と初対面で行います。そのため、回答内容だけではなく、普段友達同士での練習ではあまり意識しない表情や言葉遣い、声の大きさなどにも気を配りながら面接練習をすることができました。

二つ目は、より自分に自信をもてたということです。これまで、友達同士や多くの先生方と面接練習をしてきました。しかし、自分がやってきたことが正しいのか不安を感じることがありました。模擬個人面接で小・中学校や教育委員会等で長年働いてこられた経験のある先生方からの的確なアドバイスや温かい励ましのおかげで、確かな自信をつけることができました。

教員採用試験本番では、模擬個人面接も踏まえた練習の成果を発揮することができ、やりきることができました。皆さんも、教員採用試験に向けて頑張ってください。応援しています。

埼玉大学には、教員採用試験対策ができる環境が整っています。先生方や友人など、周りの支えを大切にして夢に向かって頑張ってください。応援しています。

教採合格者から後輩へのアドバイス

〈小学校①〉

社会専修 石坂 唯人

私は大学推薦で一次試験免除のため、二次試験に向けて取り組んだことを二つ紹介します。

一つ目は、学校フィールド・スタデイ等で学校現場に伺うことです。受験した埼玉県では、場面指導等現場を想定した質問が多いため、子供達に対するやりとりや指導がとて学びになり、受け答えに説得力をもつことができました。二つ目は、様々な人と試験対策練習をすることです。教職セミナー、個別相談、大学推薦の人との練習、友人と企画した試験対策会など多くの人と練習を重ねました。また、大学の実務家教員の先生方には何度も小論文添削や面接練習をしていただきました。そして、回数を重ねるごとに自信を深めることができました。さらには、友達同士で学び合い、情報共有を行うことで、新たな視点を獲得することもできました。

私が教員採用試験に合格できたのは、実務家教員の先生方をはじめ、教職指導員の先生方、教育への志をもった仲間、そして夢を応援してくれた家族の存在が大きいです。皆さんも息抜きを大切にしながら、笑顔で最大の力を出し切って頑張ってください。私も学び続け立派な教員を目指します。一緒に頑張ります。応援しています。

〈小学校②〉

心理・教育実践学専修 村井 千咲斗

私が採用試験までの過ごし方として意識したことを紹介します。

一つ目は、積極的に学ぶ環境を求めます。私は「夢講座」の他に、三年間の学校フィールド・スタデイ、研究発表会や研修に数多く参加しました。学校現場での学びは、採用試験においても自分の力になってくれました。また、夢講座の仲間を募り、試験対策ができる環境を作りました。この環境があれば団体戦とも言える採用試験には勝てなかったと思えるほど必要不可欠な環境でした。二つ目は、目標の設定と反省を欠かさず行うことです。私は決して小論文や面接を周りの人よりも多く練習したという訳ではありません。しかし、特に面接対策では目標をもって臨み、終了後は必ず振り返りをノートに書き、自分を客観的に捉える時間を設けていました。これにより苦手と向き合いながら、自分のよいところも見付け、モチベーションの維持に繋がることができました。

これだけでなく、先生方のサポートがあつて掴み取った合格だと感じています。みなさんの合格とささやかながら応援しています。

〈中学校①〉

言語文化専修英語分野 斎藤 視由

私が教員採用試験を受験する上で効果があつた取組についてご紹介します。

一次試験については、過去の問題を早くから解き、それをもとに勉強していくことです。自分の受験する自治体の傾向を掴み、効率よく勉強を進めていきました。ある程度の傾向を掴んで勉強した後、何度も問題を解いて自分の苦手分野を集中的に勉強するとよいと思います。

二次試験については、仲間との練習で学び合うことです。小論文の読み合い、面接練習、模擬授業の見合いなどすべての試験対策を仲間と共に行いました。そうすることで競争心も相まってお互いに高め合うことができました。特に私は、同じ受験自治体、校種の友達と勉強していたため、それがよい刺激となり、常にモチベーションを高めることができました。

これらに加え、教職セミナーへの参加、大学の先生に二次試験対策をお願いする、先輩にアドバイスをもらうなどもしていました。様々な方にご指導いただいたことは、私にとって大きな力となりました。ぜひ皆さんも積極的に学ぶ機会を増やし、合格への道を歩んでください。応援しています。

〈中学校②〉

言語文化専修国語分野 渡邊 隼颯

私が教員採用試験のために取り組んだことを二つ紹介します。

一つ目は、教員にとって必要な知識や教養を身に付けることです。私は二次試験からの受験でしたが、一次試験で問われるような教育に関する教養や、自身の専門科目の知識について一通り勉強しました。それらが自身の基盤となり、二次試験で活用することができました。公的な文書を読み込んだり、教科書や学習指導要領を活用して勉強したりするとよいと思います。

二つ目は、客観的な視点を得ながら取り組むことです。面接練習や小論文対策は常に誰かと協力して行いました。互いに学び合うことで、自身の課題に気付いたり、その人のよいところを取り入れたりすることができました。また、教職支援の先生方に多くの指導をいただきました。セミナーの時間はもちろん、それ以外の時間にも面接指導や小論文添削をしていただきました。面接や小論文はやればやるほど力が付くので、失敗を恐れず早い段階から取り組むべきだと思います。

前にも書きましたが、試験対策は早い段階から始めより多く行ってください。それが自分の力になるとともに、自信へと繋がります。共に学ぶ仲間や、支えてくださる先生方を大切にしながら、みなさんの夢へと進んでいってください。

〈高等学校〉

社会専修 桑原 智也

私は面接に対して苦手意識を強く持っていました。そのため面接対策は人一倍行いました。その中で効果的であったものを二つ紹介します。

一つ目は、生成AIを活用した面接対策です。私は教員採用一次試験後も部活動を続けていたため人との面接練習の機会があまり確保できていませんでした。そこで私は練習機会の確保のために生成AIを活用して面接練習を行いました。生成AIは事前に読み込ませた問題を出題してくれるのに加え、入力された回答を深掘りしてくれるため、本番さながらの面接練習が一人で行えました。さらに教育理念や法律など、わからなかった質問に対してはすぐに該当部分を教えてくれるため、勉強の効率がよかったです。

二つ目は、自分の面接練習の様子を動画で撮影することです。これは教職セミナーの先生が勧めたくれたもので、試験官から見た面接中の自分の様子がわかります。姿勢や話し方などは意識しないと直せないものなので自分を客観的に見ることはとても重要です。

試験は不安かもしれませんが、最後まであきらめず頑張ってください。応援しています。

〈特別支援学校〉

自然科学専修理科分野 澁谷 樹

私は大学推薦をいただき、一次試験免除でさいたま市の特別支援教育担当教員(小学校)の採用試験を受験しました。二次試験までに取り組んでよかったと感じたことを紹介します。

まずは面接試験に向けて、過去の試験から質問内容を集めました。質問に対する回答を法令の知識と一緒にノートにまとめて、いつでも確認できるようにしました。さらに、「夢講座」と大学推薦との合同面接練習や、夢講座の有志で行った面接練習に参加しました。毎回の練習後には、アドバイスをともに過去の自分の回答を修正しました。様々な学校種の人と練習をすることで視野が広がり、新たな考えを得ることができました。

論文試験は、主に教職支援セミナーを通して対策としました。毎週セミナーの先生にご指導いただき、自分の論文の型を固めることを意識しました。また、さいたま市の過去の論題で練習し、論題を見たら柱立てが思い浮かぶようになることを目指しました。

試験に向けて対策をする中で、「採用試験は共に働く仲間探し」という言葉をいただきました。試験に向けて不安な気持ちを抱く方も多いと思いますが、同じ夢をもつ仲間と高め合い、最後まで頑張ってください。応援しています。

〈幼稚園・保育園〉

乳幼児教育コース 中島 千裕

公務員試験(公立保育士)の採用試験に向けた取組を紹介します。一次試験に関しては、参考書を何周も読み込んだり、様々な問題に取り組んだりすることで知識を付けていきました。自治体によっては専門試験に加えて、教養試験や論文試験を課す場合もあるため、志望先の試験内容を確認した上で対策を進めることが大切です。

二次試験の面接試験では、教職セミナーを使って面接練習に取り組みました。先生からアドバイスをいただいたり、友人と意見を共有したりすることで、自分の言葉で質問に答えられるようになりました。何度も面接練習をして自信をつけることで、想定外の質問がきたとしても慌てずに対応できるようになりました。私が受験した以外の自治体では、ピアノの弾き歌いや手遊び等の実技もありました。大変緊張しますが、いかに子どもたちの姿を想定しながら楽しんでできるかが大きな鍵になると思います。

公立保育士の試験は、自治体の多くが夏以降の試験になるため、就職活動の時期が遅く不安な気持ちになることも多くありました。しかし、同じ夢を志す仲間のお陰で乗り切ることができました。仲間と共に最後まで諦めずに頑張ってください。応援しています。

〈養護教諭〉

養護教諭養成課程 新井 梨紗

私は、採用試験を受験して、夢を明確にして追いかけて続けることが重要であると感じました。私が行った対策について紹介します。

一次試験の対策については、とにかくたくさん問題に触れることを意識しました。そして、見たことがある問題を確実に正解するため、問題集を何周も繰り返し行いました。私の受験した自治体は、一次試験を突破できれば、倍率が二倍程度まで絞られるため、とにかく一次試験に合格するための勉強をがんばりました。その知識が二次試験にも活かすと感じています。

二次試験は、自分一人での対策は難しかったため、先生方や友人家族の力を借りました。面接や場面指導は正解が一つではない試験であるため、自分が教師になったときのことを想像し、どんな教師でありたいかという目標を明確にしておくことが大切だと思いました。試験の対策をしている間、何度も不安な気持ちになりましたが、そんな時に支えになったのは、養護教諭になりたいという強い思いと、一緒にがんばる仲間たちとの絆でした。「先生になりたい」という気持ちを大切にし、これから出会う子供たちとの出会いを楽しみに、力を出し切ってほしいと思います。応援しています。

キャンパスライフ サークル紹介

体育系

仲間を信じて

硬式野球部

豊田 壘

(身体文化専修体育分野二年)

埼玉大学硬式野球部は、四年生八人、三年生三人、二年生八人、一年生五人、マネージャー六人の計三十人で、リーグ戦優勝、一部昇格を目標に活動しています。

部の特徴として、大人の監督がないため、全て自分たちで練習内容を決め、試合の采配や部の運営を行っていることが挙げられます。意見がぶつかり合う時もありますが、話し合いを重ねることでよりチームの結束力を高めるよう努めています。また、小学生との交流、地元の野球クラブとの活動なども積極的に行ってきました。小学生との交流では、埼玉県内の小学校に協力していただき、ベ이스ポール型の授業でアシスタントとして小学生に教えるという活動を行いました。将来教員を目指す学生も多くいるため、とても貴重な時間を過ごすことができました。昨年度は春季・秋季リーグ戦ともに二位と、あと一步のところまで二部リーグ優勝を逃してしまいました。その悔しさをバネに臨んだ今年度の春季リーグでは、埼玉大

学を含む三大学が同率一位となり、惜しくも得失点差で優勝を逃してしまいました。しかし、確かな成長を感じ、迎えた体育大会では準優勝という好成績を収めることができました。しかし、あと一步のところまで勝ちきれないのは練習での詰めの甘さや、ここ一番での勝負力を発揮するメンタルの弱さなどまだまだ課題がたくさんあることを実感しました。あと少しを勝ちきる負けないチームを目指して、練習に励んでいきます。

最後になりますが、毎試合応援に来てくださる部長の先生や保護者の方々、サポートしてくださるトレーナーの方などへの感謝の気持ちをお忘れず、精進してまいりますので、ご支援をよろしくお願い致します。



関東甲信越地区体育大会の集合写真

受け継がれる意志

体育会男子バスケットボール部

越田 旭

(身体文化専修体育分野四年)

私たち埼玉大学体育会男子バスケットボール部は、週四日(リーグ戦期間中は週五日)、埼玉大学の第一体育館で活動しています。令和六年十月に四年生が引退し、現在の部員数は、三年生が七名、二年生が六名、一年生が六名の計十九名です。年間を通して北関東五大学大会、関東大学選手権大会、関東大学新人戦、関東甲信越大学体育大会、関東大学リーグ戦大会の五つの大会があります。私たちは、関東大学バスケットボールリーグ四部に所属しており、八月下旬から約二ヶ月にわたって行われる関東大学リーグ戦大会では、三部昇格を目標に日々練習に励んでいます。

私たちが、これらの大会に出場し、バスケットボールに取り組むことができている背景には、ボランティアで来てくださったっている監督やOB・OG会の方々のご尽力と、多くの方々からのご支援があります。埼玉大学体育会男子バスケットボール部の特色として、他学部・

他学年の学生と関われること、学生同士で切磋琢磨し、成長していることが挙げられます。部活に入らなければならない出会いがたくさんあります。また、練習メニューを考えたり、練習試合を組んだりするなど、高校生までは先生がやっていたようなことまで学生が行います。練習メニューを考える際にも、学生コーチを中心に、自分たちに必要なものや足りないものを補うために学生同士で話し合うなど主体的に活動しています。部活に入って、自分たちの目標のために協力して、辛い時も楽しい時も仲間と共に過ごす時間は、青春そのものです。

私たち埼玉大学体育会男子バスケットボール部は、四年生の意志を後輩に引き継ぎ、これからも目標に向けて精進して参ります。今後とも、ご支援・ご声援のほど、どうぞよろしくお願い致します。



関東大学バスケットボール大会の集合写真

キャンパスライフ サークル紹介

文化系

心を一つに最高の団員たちと共に

埼玉大学合唱団

田村 隆翔
(社会専修三年)

こんにちは！埼玉大学合唱団です！私たちは、埼玉大学唯一の合唱サークルであり、一九五五年に創部された歴史ある混声合唱団です。現在は、一年生から四年生までの約三十名で、毎週月・木・土の三回、近隣の公民館や大学構内を主な練習場所として、経験の有無に関わらず、全団員が向上心をもち心を一つに活動しています。

私たちが合唱団は、一年を通して様々な演奏会に出演しています。具体的には、埼玉県合唱祭、博物館や公民館などでの訪問演奏会、むつめ祭、定期演奏会などがあります。中でも、定期演奏会は今年度で六十六回目の開催となり、毎年冬に一年の集大成として約二時間開催する、最も重要で大きな演奏会となっています。私たちは、これらの各種演奏会に向けて来ていただける全てのお客様に満足していただける最高の音楽を創り上げる事ができるよう、日々様々な言語・ジャンルの曲を練習しています。さらに私たちは、一年を通して

様々なイベントを企画し実施しています。新入団員歓迎会や卒団宿泊旅行、毎年九月に新潟県にて三泊四日で行われる夏合宿やカルテット大会など、各種演奏会の打ち上げだけでなく、多くのイベントを通して団員同士の絆を深めながら楽しく活動しています。

これからも、歴代の先輩方によって築き上げられてきたこの歴史ある団を、より一層発展させることができるよう、日頃から最高の団員たちと共に心を一つにして活動していきたいと思っています。

最後になりますが、私たちの活動を支えてくださっている先生方やOB・OGの方々ははじめとする全ての皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



第65回記念定期演奏会の集合写真

まごころ寄せ合同

裏千家茶道文化研究部

相馬 さくら
(生活創造専修家庭科分野三年)

埼玉大学裏千家茶道文化研究部です！部員は十三名で、週に一度、学校の和室に先生をお招きして稽古を行っています。活動内容を月ごとにご紹介します。

四月には、新入生向けチラシ配りやSNSでの宣伝をします。実際に和室でお茶やお菓子を楽しむ体験を行い、今年は三人の新入生が入部しました。上級生は毎年、四月半ばに桜草公園で行われるさくら草祭りで、校内の表千家の茶道研究会と合同で点前を行っています。

五月からは一年生も含めた稽古が開始され、七月の学内向け茶会について計画を立てます。

懇親茶会という名前のその茶会では、先生と茶道部の卒業生をお招きして点前を行います。対外茶会を行う前に、新入生は茶会での動き方や水屋仕事を、上級生は新学年としての動き方を練習することを目的としています。

九月には、石川県金沢市で行われた全国学生大茶会に席主校として参加し、茶道の歴史が深い金沢市で、点前や全国各地から集まっ

た茶道部の学生との交流を楽しみました。

十月からは本格的にむつめ祭での茶会の準備が始まります。具体的には、来客用の看板、茶券づくりや道具決めなどです。毎年茶会のテーマを考え、それに合った季節のお茶菓子も用意します。

また、日本文化の授業の一環で学生の皆さんに茶道の文化を体験してもらおう活動も行っています。主に外国人留学生の方が和室に多くいらつしやり、茶道の作法を体験していただいています。

十一月のむつめ祭では、大学会館二階の和室にて茶会を行います。一月には、卒業生の方々が新年最初の茶会である初釜に私たちが招待していただき、趣ある茶室で抹茶と料理を堪能します。

三月には、卒業する先輩方と見送る私たちが互いに点前を行う卒業茶会を行います。先輩方と一緒にいられる最後の茶会なので、毎年これまでの感謝の気持ちをもつて点前を行います。



むつめ祭での茶会

キャンパスライフ ゼミ紹介

異文化を知る

社会専修 小林聡研究室

四年 赤尾 亮弥

社会専修には、人文地理学・日本史学・東洋史学・法学・社会学・倫理学・社会科学教育といった多くのゼミがあり、社会科学に関する様々な学問に触れることができます。

一年次から二年次にかけて各種の「概論」を履修し、各分野の基礎を学びます。また、二年次には前期に各種の「基礎研究」のうち、興味のあるものを選んで履修し、やや専門的な内容を学びます。後期には各種の「研究入門」が開講されていますが、私は「外国史研究入門」を選択し、東洋史学に関する入門的な文献をいくつか講読するとともに、アジア諸地域に関するインターネット上の様々な言説を批判的に摂取することを学びました。

正式に東洋史ゼミに入るのは三年次になってからです。ゼミの活動は「外国史演習」を中心に行われます。演習では前期に史料講読を学びますが、私たちの学年では、『三国志』などの「正史」をいくつか読みました。また夏休みには三、四年生と大学院生が参加する合宿があり、三年生は「卒論で扱

ってみたいテーマ」を発表しますが、私は「東洋史学の立場から見た十字軍」というテーマで発表しました。後期の演習では、合宿で披露した研究テーマに沿って、文献を読んでその内容をレジュメにまとめて報告します。四年次になると、今まで蓄積してきた知識をもとに本格的に卒業論文の作成に入ります。今までの先輩方のスケジュールを見ると、一月中旬に卒論を提出し、二月上旬か中旬に卒論発表会で成果を報告することになるようです。

ゼミの運営については、ゼミ長・副ゼミ長・合宿係・コンパ係と役割を分担しながら仕事を行うことで最大限力を発揮できるようにしています。私はゼミ長として、ゼミ生のモチベーションを維持し、ゼミが盛り上がるように努力してきました。そんな私の一番の思い出はゼミ合宿です。先輩や後輩と授業で会うことは少ないですが、合宿では花火をしたり海で遊んだりして、皆で存分に楽しみました。また、先輩の卒論発表会では、会場設営や司会進行などの業務を自分たちの三年生が務め、うまく進むように様々な工夫を凝らしました。その後の打ち上げコンパでは卒論や将来のことなどを話し合い、とても楽しい時間を過ごしました。

対話的な学びの場

心理・教育実践学専修 堀田香織研究室

四年 加藤 僚

心理・教育実践学専修の専任教員の方々は皆さん面倒見がよく、とても頼りになります。中でも学生に寄り添い、ご指導くださるのが堀田先生です。ご専門は臨床心理学で、家庭と学校の関わりについて研究されており、今年度末で

定年退職されます。私たちは堀田先生の豊富な経験や知識、それらをもとにしたご指導を通して教育に関する知見を広げること、レポートや論文のブラッシュアップを行うことができました。四年間の集大成である卒業研究についてもよくできていたところはよく褒め、改善を要するところはアイデアをくださるといふ堀田先生のご指導もあり、順調に進めていくことができました。

研究室での学びとしては、三年次には卒業研究に向け、臨床心理学領域の文献を輪読することや卒業研究を見据えたゼミ論文の執筆を行いました。文献の輪読では、学生それぞれが読んだ箇所についてレジュメを作成し、発表を行いました。学生同士で質疑応答を行いました。堀田先生からも意見をいただいたことで、卒業研究で用いる調査方法や臨床心理学について深く学ぶことができました。またゼミ

ミ論文の執筆では、学生それぞれが設定した研究テーマに沿って取り組みました。三年次にまだ慣れない研究に取り組むということでは不安はありましたが、研究室という活発な意見交換の場を設けてくださったこと、堀田先生の確かなアドバイスがあり、全員が執筆を終えることができました。

四年次には主に卒業研究を行いました。多くの学生が三年次に執筆したゼミ論文をベースに研究を行っていきます。これは他の研究室と大きく異なり、この研究室の魅力でもあります。前述のように三年次に研究を行うことに対しては不安がありましたが、この経験があったことで、四年次の卒業研究は、他の研究室に所属している学生よりもスムーズに取り組むことができました。

またこの研究室の魅力の一つとして、学生同士、先生と学生のつながりが深いということが挙げられます。これまでに堀田先生を含めた堀田研究室のメンバーでご飯を食べに行ったり先輩方や後輩との親睦会を行ったりしてきました。このように授業外でのつながりがあることでお互いのことを知ることができ、親しくなることができました。この深いつながりがあるからこそ、発表での意見交換が活発になり、お互いに学び合うことができたのだと思います。



同窓生の広場

上高地・焼岳・西穂高岳登山

相上 興信

当時の大学受験は、きわめてきびしい時であった。競争率が高く、浪人する者も多い時代であった。高校時代はいろいろな分野で部活動に携って活動してきており、それぞれの特色を持つ人たちである。

ここに集った四人は入学以来気の合うメンバーである。これから我々ほどのような活動をするか話し合い、山登りがよいという発言があり、登山を実行することに意見が一致した。小川と井上はバドミントン部で、渡辺は水泳部で相上はテニス部である。四名は、それぞれ健康、強じんであり活動的で動きがよかった。会の名は、「登山の会」とした。数回の会合を重ねて、今後の日程を決め年一回の山行きの計画ができ、一回目は、上高地・焼岳・西穂高岳と決定した。

この後は、西穂高岳へ縦走をはじめた。天候は、この時間まで良好であったが、あつという間に雲が湧き出し、天気が急激に変化し雨が降り出し、その勢いは、壮烈なものになった。雷雨となつて勢いはさらに強く、雷鳴は轟き、背面のリュックは、ビショビショになり、西穂高岳尾根では、大きな岩影にかくれ、一時間ぐらいにわたり、動きがとれなかった。様子を見て、これからの前進は不可能と考え、西穂高岳の縦走は断念した。上から滝のように打ちつけてくる雨、下から突き上げてくる雨はかなり強く、顔には痛い雨であった。下山も雨のため、きわめてむずかしく、困難をきわめた。

縦走の下山の反省から学ぶということになる、これからは、丈夫で高性能な装備をさらに高め、あらゆる気象環境の中でも耐え得ることが必要であると痛感した。悪天候に登山を行うのは、大きな危険がともなうのであり、どんな気候、環境にも対応できる準備を考えなくてはならないという反省の念につきる。

成功の道は、道具の選び方が大変重要であり、反省させられた。危機的状況下に対応できる、安心安全を担保する事前準備がいかに大切かを知る山行きであった。

(昭和三十六年卒)

蒼玄寮の思い出

比留間 英雄

今から六十年以上も前の学生時代を、ふと思い出すことがある。現在の北浦和公園の地はかつて文理学部の数地であったが、少し離れた所に男子の蒼玄寮があった。私は蒼玄寮での生活が最も深く心に残っている。

寮は古い木造の二階建てで、冷暖房設備も電気洗濯機も浴室もなかった。ただ狭い娛樂室に、藤岡学長が寄贈してくれたテレビが一台置かれていた。

この寮に年齢も学部も出身地も異なる、三百名余りが生活していたのである。ひたすら勉学に励む人、サークル活動に精を出す人、学生運動に奔走する人：それはそれは、いろいろな人がいた。

私は身近にこれ程多くの人と接したのは、初めてであった。推されて寮長を務めてからは、さらに多くの人を知ることになった。

大学が大久保に移転することに伴い、新しい寮について学生部長のご自宅へお伺いしたこともある。

寮は一室四人が大半年で、年に一度部屋替えがある。希望する人と同室にもなれたが、初めて出会う人が殆どである。私は生涯の友と

なるT君と出会うことができた。

時代は高度経済成長の前で、総じて生活は貧しかった。学資の足しにするため、アルバイトに追われる人も少なくなかった。

物は乏しくとも、この寮生活は活気があり、毎日が充実していた。中でも、皆で取り組んだ寮祭は盛大で楽しいイベントであった。この日限りは、別所沼近くの女子の悠元寮を訪れることもできた。

庄巻は、最終日にグラウンドで行うキャンプファイヤーである。積み上げた廃材の炎を囲み、肩を組みながら寮歌を歌ったものだ。ああ六寮に秋たけて、雨蕭蕭と音もなし：今も寮歌は忘れない。あの時に一緒だった喜界島出身のO君、花巻市出身のKさん：今はどうしているだろうか。

この蒼玄寮の生活は、私の人生でこの上ない貴重な経験であった。今も大切な心の糧になっている。

過日大学に問い合わせたら、大久保校舎の学生寮は学生宿舎に変わっていた。

名は消えても、「蒼玄寮」は、私の心に深く刻まれている。

(昭和四十一年卒)



埼玉大学当時の思い出

蜂須 栄

教職に就いて定年までの三十八年間、紆余曲折を経ながらも充実して過ごすことができました。その間、教頭や校長に加え県教育局にも勤務し、市教育長や教育事務所長をも務めさせていただきました。お導きいただいた多くの方々、深く感謝いたします。今振り返るに、教職を貫く柱は大学時代に培われたように感じております。私は、中学校の美術教員でした。埼玉大では教育学部中学校課程美術科で学びました。しかし、身の程知らずにも第一志望は他の教科で受験したのです。志願書の下段に第二志望の記入欄があり、美術が好きだったので、とりあえず美術と記入しました。卒業時に教授から「蜂須よ、よく頑張ったな。第二志望者は途中で挫ける者が多いので採るのを躊躇したが。」と言われ、目頭を熱くしたものです。美術科の入試は「石膏デッサン」が課せられていました。私のデッサンは、画面から左肩が大きくはみ出し、右側は画面の三分の一もが空いていました。どう見ても絵の力は合格した仲間の中で最下位です。最初は希望の教科ではないので、絵画の授業にも力が入りません。が、仲間の熱心な姿に影響され、次第にビリから抜け出さなければと思うようになりました。

やっとな真剣に取り組み始めたころ、父が胃癌に罹り、全摘出の大手術を受けました。当時、常に三十頭を搾乳する酪農を営んでおりましたが、父は当然重労働には従事できません。母を中心に弟妹と家族全員で家業に取り組みこととなりました。弟は都内の高校に通いながら牛舎に入り、妹は専ら食事担当です。長男の私は、家業を継続し、弟妹の学業を維持するために大学退学もやむなしと覚悟しました。幸いに父母から、全員で頑張れば退学の要なし、と励まされ退学は避けられました。早朝に起きて牛舎に入り、大学からは講義が終了次第バスに飛び乗る毎日です。真夏などは、太陽が傾き始める頃、仲間はやっとな絵に向かうのですが、私はそれを尻目に牛舎に急ぎました。勢い、許された時間には全力で画面に没頭します。

卒業制作で描いた人物画をその年の埼玉県展に出品したところ、なんと特選入選したのです。埼玉新聞の一面に私の着慣れないスーツ姿が載りました。ビリからの脱出です。

私の埼玉大時代の取り組みは、絵画の技量向上以上に、大きなものをもたらしたと振り返っております。それが、教職三十八年間の大きな充実を支えてくれたと、絵と牛に、今更に感謝しております。

(昭和四十四年卒)

私の命

龍口 喜子

私は、戦後生まれです。戦前と戦後の時代が重なり、混沌とした中で私は生まれました。

我が家は、町の小さな自動車の修理販売をする工場を営んでいました。私が小学生の頃、父は夏の暑い日、上半身裸で汗をかきながら、自動車を修理していました。私は、父にシャツを着てほしいと思っていました。それは父の背中ではデコボコで穴が開いているように、人に見られたくないと思っていました。のちに、母から戦地で焼夷弾が破裂して、その破片が父の背中に刺さったのだと聞きました。父は背中痛みや苦しみを抱え、日本に帰ることができました。父の頑張りで、私がこの世に生を受けることができたのだと思いました。

毎年八月十四日の晩、実家に家族がみんな集まった時、母はよく「今頃は、あの辺を走っていたね。」と話し出しました。(熊谷が焼け野原になったのは、終戦の日の明け方、太平洋戦争最後の空襲でした。) 爆弾が雨のように降ってきて、周りが火の海になり、その中を逃げまどっている途中、星川にさしかかると、川には水がありません。人々が川に入っていたそうです。母は姉と兄の三人で川に入っ

ていきました。水面がちようど兄の口元だったので、母は「この子が溺れてしまう」と思い、星川から出て東小学校の裏の方に逃げたのだと言っていました。明け方、飛行機の音も聞こえなくなったので、避難した先から家に戻ろうと燃えている家や倒れている電信柱を避けながら、星川にさしかかりました。そこで目にしたのは、無残に川に浮いているたくさんの人でした。星川の川べりの家が燃え、川に入った人たちは、逃げる場所を塞がれてしまったのだと。兄の背がもう少し高かったら、川の中で最期を遂げた人たちと同じ運命だったと母は語っていました。(毎年、熊谷の星川では慰霊の灯籠流しが行われています。)

本当に生と死は、紙一重だと思えます。この話を聞くたびに、窮地をくぐり抜けてきた父と母があり、私が生を受けることができたとしみじみ思います。今の世界情勢の中で、いつ自分の身にも悲惨な状況がくるかわからない時代です。そう思っているも、自分から発信する力のなさをもどかしく感じています。平和を祈ることしかできない自分でも、人の心のありようを変えていくこともできるのではないかと。何も背負っていない私だから好き勝手なことが言えるのでしょうか。

(昭和四十五年卒)

振り返ってみると

渡邊 よしみ

私が大学に入学したのは、五十年以上も前のことになりました。過ぎ去った年月のあまりの長さに、戸惑うばかりです。

大学進学の際の動機は、明治生まれの祖母が、「女性も、手に職をつけなければ」と、口癖のように言っていたからです。その言葉どおり、大学生となって、就職に就くための一歩を踏み出しました。当時、学生の自分は、勉強をするにと考えていましたが、身の回りに起こる社会事象にも、心を動かされました。大学紛争の激化、三億円強奪事件、アポロ十一号月面着陸、日本万国博覧会、三島由紀夫自裁、札幌オリンピック開催など、リアルタイムで体験することができました。その他、旅行、読書、音楽、ファッションにも興味を引かれ、関心を寄せていきました。それぞれの分野には、大学の講義とは違った感動があり、物事を考える視野を広げることができました。大学生活は、行動範囲も広がり、エネルギーに動き回りましたが、大過なく、平凡に過ぎていったように思います。

教員採用試験に合格し、小学校の教員になりました。最初は一年生の担任です。子供達は、とても愛らしく、毎日、学校に通うのが

楽しみでした。授業をしたり、一緒に遊んだり、幼い頃の学校ごっこを再現しているような気がしたものです。知識も技術も見識も不十分でしたが、早く一人前の教師になりたいと、無我夢中で過ごしました。先輩の先生から、「子供や保護者の前で、不安な様子や自信のない態度は、決して見せないこと」と、アドバイスをいただきました。「実力をつけ、信頼される教師になること」と理解し、肝に銘じました。

ある時期、子供に学ぶ喜びを味わわせる学習指導について、校内研修を続けたことがあります。子供達に、勉強がもしろいと言われたとき、私自身が、学ぶ喜びを味わうことができたことと気付きました。この経験が、教師としての自信をつけてくれました。

三十八年間の教師生活の中では、仕事と家庭の両立に苦慮したこともありましたが、仕事を辞める気持ちは、湧いてきませんでした。教師の仕事が好きだったことと、子供の成長に関われることがうれしく、自分の喜びとして感じることができたからです。

振り返ってみると、これまでの体験や経験、その時々感情が、今の私に集約されています。そう考えると、無駄なことは、何一つなかったのだと思えます。

(昭和四十七年卒)

教職の道 人とかかわりの中で

梅山 健司

模試後の高校のベランダで、空を見上げながら級友らと話していた。アポロ十一号が、人類の夢を乗せて月に着陸したという時、自分達はまだ将来の夢さえ描けていない。これでいいのかなど。そんな中、N君が「教師になりたい。」と言った。これまでも何度も聞いていたが、この時はなぜか心に刺さった。教師が私の夢となった瞬間だった。彼の言葉が、教師への道の第一歩を進めてくれた。

期待と不安の中で大学生活が始まった。しかし、不安はすぐに解消された。一期一会を信条とする年上の級友たちが中心となり、クラスをまとめくれたのだ。教養棟や学生寮の一角によく集まった。クラス新聞を発行したり、秩父の大学寮に泊まったり、山手線一周ハイク、東北へのドライブ旅行、ハードなバイトも一緒にした。

サークルでも、よき先輩や同級生に恵まれた。クラスもサークルも、卒業後半世紀の今も、同窓会・OB会を開いている。教友会の退職時期同窓会では、三分の一が、クラスとサークルの仲間であった。卒業後、赴任したK校は、市内東端にある新設校であった。全てを新たに創り上げていくことのできる学校だった。その後も新たに

着任した若い教員の力を結集し、先輩の支えのもと、新たな取り組みに挑戦していった。三年目には市の研究委嘱校になった。後年、異動先の学校を訪れた教育長が、校長に「光は東からと言うが、本市においても、中心校以外でも委嘱研究ができるようになったのはK校のお蔭だよ。」と語るのを聞き、とても誇らしく感じたものだ。

子供達との思い出は、数えきれない。今でも、誰かが一声かければ、集まってくる教え子がいるというのも教師冥利に尽きる。

管理職にあっても、良き仲間が多いことは心強いものである。学校経営上の困難な問題も、豊かな経験と知識に裏付けされた助言を受け、解決することができた。

教職生活を振り返ると、教師の道へと背中を押してくれた友、人間の幅を広げてくれた学友、教師としての力を育んでくれた先生方、そして生きがいにくれた子供達。多くの出会いにより豊かな人生を歩ませていただいたことに感謝。

生成AIやデジタル化の時代だからこそ、教育は、人と人との直のふれあいによってこそ成り立つという原点を忘れてはならない。

埼玉大生にも若い先生方にも、多くの人との関わりを大切に、子供達のために、豊かな人間性や指導力、使命感を高めていっていただきたい。

(昭和五十年卒)

思索する身体を

櫛引 千恵

この夏に「教師教育のグランドデザイン」という講演を聴く機会がありました。この講演で、私の耳に留まったのは、「思索する身体」という言葉でした。私は、この言葉を次のように捉えました。

「教師の適性としてなくてはならない要素に、学問的知識・技能・思索する習慣、実践経験が挙げられる。思索する習慣は、知識・技能を深めるためにも、実践を支えるためにも、必要不可欠である。

教師は、何が教育的によいかわるいのかを日々考え、判断しなければならぬ。しかも『答え』は時と場合によって異なり、それが『正解』かどうかを確認することも困難なことが多い。

だからこそ、思索が習慣化し、意識や努力の感覚なしに、思索することが身体化までしている『思索する身体』が必須なのである。大学の役割の一つは、この『思索する身体』を培うことである。

さて、私の大学生活はと、咄嗟に自問自答しました。「思索する身体」までは至らなかつたものの、思索の種をたくさんいただいたと感謝せずにはいられません。

その種の一つが、発達心理学のテキストであった、岡本夏木氏の『子どもとことば』（一九八二年）

という本です。当時は、その内容について、差し迫った問いも課題も貧弱で、とても受け身な読者であり、学び手でありました。

しかし、卒業後、何度か引越越しを繰り返しましたが、その度にこの本は私の本棚に置かれ、その後、出版された『ことばと発達』（一九八五年）と『幼児期』（二〇〇五年）と共に、教師として、母親としての私に、知恵と思索の機会を与えてくれました。

ここに来て、小学校一年生の担任が連続八回という私は、幼児期と学童期の接続を考えるために、『幼児期』を読み返しました。この本は、岡本氏が何と七十九歳の時の著作で、社会の情報化と能力主義により、幼児期が空洞化していること、幼児期を再建することが緊急な課題であり、そのためにということが畳みかけるように述べられています。私は、その勢いに圧倒されつつ、思索し探究し発信し続ける岡本氏を想い、私もそうでありたいと思いました。

学び続けていると、学び続けている人との出会いがあります。その出会いにより「思索する身体」が鍛えられます。今後、社会がどのように変化していくのか、変化の中でどう教育に向かつていくべきか、今後も学び続け、「思索する身体」を益々鍛えていきたいと思っています。（昭和五十九年卒）

退職して思うこと

石井 宏明

私は、この三月をもって定年退職（役職定年）となりました。県教育行政をもって退職となりましたが、これまで、教友会の皆様をはじめ多くの皆様に多大な御支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

振り返れば、私は、埼玉大学教育学部在学時、教員になることが困難な時期でもあつて、教師になることを躊躇し、民間への就職も検討したことを覚えています。つまり、「何がなんでも教師になりたい」という思いではなく、「とにかく職に就ければ」という考えで自分の進路を考えていました。そんな私が、退職まで続けることができたのは、多くの方々の支えとともに、「教育」という、人が人を育てる営みに携わること、楽しさややりがいを感じ、没頭してきたからだと思えます。もちろん辛いこと、苦しいこともありましたが、それらも含めて教職の魅力を感じていたように思います。

この四月より私は、県内私立大学の教員養成課程で教鞭をとらせていただいております。先日、教育実習を終えた学生がこんなことを言っていました。

「私、やっぱり先生を目指します。子供たちからたくさんエネルギーをもらいました。先生の仕事って大変だけどやってみたいです。」

この学生は、教育実習前は、教師か公務員かで自身の進路を迷っていた学生です。四週間の教育実習を通して、受入れ校の丁寧な指導もあり、子供たちとのかわりから教師の職の魅力を感じたものと考えます。この学生に、「先生の仕事って大変ですよ。」と敢えて聞いてみました。するとこの学生は、

「仕事が大変なのは、公務員でも民間でも同じです。」

私は、このような学生を一人でも多く増やしたいと考え、着任以来、学生には、教職の楽しいところ、大変なところを含めて自分の経験を伝えるようにしています。

現在、社会の変化が激しく、UCAの時代と言われるような予測不可能な社会の到来と言われています。学校教育においては、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善やいじめ問題、不登校への対応、教員不足、働き方改革、共生社会の実現に向けた教育の推進等々、課題は山積しています。

十年、二十年先の社会を見据え、子供たちが、将来、生き生きと、逞しく社会の中で活躍できるように、学校教育の果たす使命や責任は重大です。それを担うのは教師です。まさに、学校教育の成否を握るのは教師だと考えます。

今後、教員養成という立場から、微力ですが、恩返しのようなつもりで、学校教育を応援していきたいと考えています。（昭和六十一年卒）

学びの場の広がり

関口 泰広

私は今年度より埼玉県内の公立小学校で主幹教諭として勤務しています。大きなトラブルもなく職務を遂行できているのは、これまでの様々な「学び」が支えてくれているからだと思っています。

私が学ぶために大切にしているのは、「新しい環境に身を置くこと」です。文献やメディアから情報を得ることが得意ではない私にとって、自然と情報が集まり、学びを得られる環境に身を置くことが自分を高める最適な方法であると大学時代に気付きました。そのきっかけをくれたのは専修で出会った友人や教育学部という環境でした。

転機が訪れたのは大学二年生のときでした。友人の紹介で何気なく参加したサークル活動が、非常に魅力的に映り、「自分も一緒に活動したい」と強く感じたことを覚えています。サークルに所属してからは、学びに満ちた日々を過ごしました。信念をもつ先輩方や仲間達から多くの刺激を受け、多様なコミュニケーションの在り方や生き方を学び、「人の熱意が地域を動かす」ということを知りました。

また、教員養成セミナーでの実習経験も、私の人生に大きな影響を与えました。特に、実習先の先生が示してくださった学級経営の方法や教育への熱意に心を打たれ

ました。その先生のもとでインターンを含め一年間学ぶ機会をいただき、子供達への愛情の注ぎ方を学びました。厳しさと優しさを兼ね備えた姿に憧れ、私もそのような教師になりたいと思いました。

大学三年生のときに所属した二宮裕之ゼミでは、同期や先輩方との交流を通じて、学び方や遊び方を知りました。この頃、先生に同行して多くの研究授業を見学する機会をいただきました。授業見学後に先輩と授業について語り合いながら食事をしたり、講義の合間に体育館でバスケットボールをしたりした時間は、今でも貴重な思い出として心に残っています。

教員としてのキャリアが始まってからも私の学びの場は広がり続けています。校外での学びを求め、町内の勉強会や県の研修会に参加するようになりました。特に昨年度までの十二年間、埼玉大学教育学部附属小学校で勤務する機会をいただいたことは何よりも大きな財産でした。先輩方や同僚に恵まれ、算数教育や学校運営について深く学ぶことができた経験は現在の教育実践の基盤となっています。

今、私の学びの場は県内から県外へと広がり、より多くのご縁に恵まれるようになりました。これからは新たな学びの場を求め、出会いを大切にしながら、自分自身を磨き続けていきたいと思えます。

(平成二十一年卒)

若さを武器にするために

道村 夏絵

私は現在、初任校の小学校で五年目の教員生活を送っています。三年間、特別支援教室の担当を経験し、昨年度から通常学級の担任となりました。

大学生から社会人になり、学校現場で諸先輩方から多くのことを学ぶ日々ですが、その中でも「若さは武器になる」という言葉をたくさん聞いてきました。教員になりたての頃は、若さ＝経験不足という認識で、その言葉の意味が自分の中に落とし込めずじまいでしたが、五年の経験の中で少しずつ理解できるようになりました。

誰でも初任の時は、指導力も乏しく授業も上手くいきません。それでも子供は、自分と年齢の近い若い先生の周りに自然と集まってくると思います。歳が近いからこそ親近感が湧きやすく、いつの間にか信頼関係ができていくのだと思います。「若さ」は子供と最初に信頼関係を築く上で、とても大きな役割を担っているのかもしれない。そのため、若さを武器にできるうちに、魅力ある授業ができるように、指導力の向上に努めたり、自分の感性を磨き子供との関わり方を学んだりすることが重要だと思います。

昨年初めて担任となり授業をしましたが、最初は全く上手くいきませんでした。それでも、子供達

と楽しく授業をするために、日々教材研究をし、子供から「授業が楽しかった」と感想をもらえたこともありました。子供の感覚は非常に鋭く、先生が一生懸命だと子供も一生懸命になります。経験豊富な先輩方のように授業で分かりやすく教えることができなくても、一生懸命に伝えようとしていると、子供も一生懸命理解しようとしてくれます。経験も技術もないからこそ、子供達と同じ温度感で授業を作り上げることができるとも、初任や若手教員の強みなのではないかと思えます。

ただ、若さはそれだけでは武器にならないこともあります。確かに信頼関係を築く上で大きな役割をもっているものだと思いますが、その信頼関係がいつまで続くかは、教員自身の努力次第なところもあるかと思えます。そのため、前述のように指導力の向上に努めること、さらに歳の近さを活かして、子供と「好き」を共有できるように自分の感性を磨くことも大切だと思います。子供が好きな遊び、アニメ、ゲームなどについて、教員自身も興味をもち、その文化に触れることで子供と関わる上での武器になります。

今大学で学び、教員を目指している皆さん、若さは武器になります。その武器が活かせる学校現場でいつか一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

(令和二年卒)

卒業五十五周年同窓会報告

卒業五十五周年同窓会

多くの同窓生の笑顔、笑顔

埼玉大学教育学部 昭和四十四年三月卒業生 石井 昇

私たちは昭和四十四年三月に大学を卒業して、それぞれ希望に燃えて任地に赴きました。大学時代は大学移転があり、大学紛争がはなやかなりし時です。それらが懐かしい思い出となっています。

爾来、卒業五十五周年を令和六年に迎えることとなり、齢八十に近くなり、同期の友の計報に接し寂しい思いで一杯でした。教友会の「卒業五十五周年同窓会」の企画で最後の同窓会をという打診を受け、教友会本部の温かいご配慮の下に、十一月六日にホテルブリランテ武蔵野で「卒業五十五周年同窓会」を開催する計画を立てました。野口淳一さんに世話人代表になっていただき、事務は長嶋美知子さんと私ということになりましたが、多くは長嶋さんをお願いいたしました。同窓会の発起人について、小学校課程ではなるべく多くのの人に、中学校課程ではそれぞれ教科の人に依頼し、十六人の方

になっていただきました。

会員名簿で住所が分かる方に案内状を送りました。その結果、五十名からのご参加のお返事をいただきました。(同窓会当日は四十八名出席)。こんなに大勢の方からご参加をいただけるのは予想もいたしませんでした。

十月四日に、ブリランテ武蔵野で発起人会を開催いたしました。発起人の方々の自己紹介の後、改めて発起人代表に野口淳一さんを選出し、その後、会の流れ、役割分担を検討しました。そして、十一月六日の当日を迎えました。開会前に記念撮影を、そして鬼籍に入られた仲間にも黙祷を捧げました。

大嶋伸之さんと柴崎俊夫さんの司会で、新井孝次さんの開会の挨拶があり、会が始まりました。発起人代表の野口淳一さんから挨拶とともに、教友会から多額の補助金をいただいていることの報告、

次いで教友会顧問・事務局長の金子美智雄様からご祝辞と埼玉大学ホームカミングデーへのお誘いについての説明をいただきました。さらに、金子様から、師範学校から始まる埼玉大学教育学部の成立過程について教えていただきました。

大澤初夫さんの乾杯の発声の後、懇談となりました。お酒と食事で緊張がとけたところで、各テーブルの代表一名から近況等についてお話をいただきました。ある人は大学当時をふり返り、ある人は民間会社に就職しJリーグ以前のサッカーの様子などについて話され、皆さん興味深く拝聴していただくに思われます。

飯田一恵さん率いるローズマリィバンドによって「高校三年生」、「青春時代」、「昂」の演奏が行われ、昔を思い出し、演奏に合わせ歌うなど和やかな雰囲気となり、さらに、アンコールの声が出、それに応えて「霧のカレリア」を演奏していただきました。会話も一層弾み、あつという間の二時間でした。佐藤誠造さんの締めの後、逆井洋一さんの閉会の挨拶でこの会を閉じ、最後に長嶋美知子さんから会計報告、残金は埼玉大学基金に寄付することが提案されました。

なお、同窓会は卒業五十五周年をもって一応の区切りとすること

となり、一堂にお会いする機会がなくなりましたが、同窓生の皆様がお健やかにお過ごしなされますことを心からご祈念申し上げます。報告とさせていただきます。



卒業五十周年同窓会

学生時代から「いま」を語り合う

埼玉大学教育学部 昭和四十九年三月卒業生 小川 良雄

十月になっても暑さの残る日々でしたが、同窓会当日の十月二十六日は、秋を感じさせるよき日でした。

ホテルブリランテ武蔵野六階の「藤の間」において、埼玉大学教育学部昭和四十九年三月卒業生の「卒業五十周年同窓会」が開かれました。出席者四十二名が元気に揃いました。

開会に先立って記念撮影を行い、司会の吉倉清子幹事の発声後、小川詠二幹事による「開会のことば」で開会しました。

そして、仲間の物故者の冥福を祈る「黙祷」を捧げてから、代表幹事の瀧澤重博氏による開催の趣旨とこれまでの経緯説明、学生時代から今に至る時代の流れやそれに伴う生き様や、健康に恵まれ出席できた喜びと家族への感謝の気持ちなどが強調された挨拶がありました。

続いて、ご来賓の教友会会長の松澤勇治様からご祝辞をいただきました。卒業五十周年という記念となる同窓会開催のお祝いとともに、幹事をはじめ、元気に参加された会員の皆様への感謝の言葉を

いただきました。特に、七十代・八十代を生き生きと過ごすコツとして、五つの「か・き・く・け・こ(感動・機嫌よく・工夫・心身の健康・交流)」が大切ではというお話は、参加者一同、感銘深く拝聴させていただきました。

また、前教友会会長の金子美智雄氏がまとめた「埼玉大学の今昔」がYouTubeで見られること、十一月二十三日の埼玉大学ホームカミングデーでは、「埼玉大学創基百五十周年記念年表披露式」が開催されるとの紹介とお誘いがあり、「皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。」との言葉で結んでくださいました。

次に、蓮見木予子幹事より乾杯の発声があり、すぐに気分は学生時代に。学生時代のクラスや教科等の仲間が近くなるよう座席を配慮したため、あちこちで和やかな会話が始まりました。

しばらくして、司会が小川詠二幹事に代わり、参加者による「近況報告」をお願いしました。皆さん快く座席順にマイクを持ってお話ししてくださいました。学生時代のこと、卒業後の仕事(教員だけ

でなく様々な職業)に就いたこと、そして定年退職してから「いま」を含めて話すとかかなりの時間を要する方もいました。

定年退職して十二年が過ぎた私たちですが、今でも臨時的任用職員として授業をされている方、あらためて趣味を見出し没頭されている方、地域貢献に尽力されている方などなど、充実された「いま」を過ごしている元気な仲間の存在を知りました。

一人二分以内での近況報告をお願いしたのですが、それでは足りないくらい内容がいっぱいの方もおられました。さすがは大人の対応、見事、既定の時間内にきっちり納まりました。

歓談後は、相馬優子幹事による「締め」を行い、閉会のことばの前に、口頭による会計報告(教友会からの補助と皆様からの会費で諸経費を賄い、残金が生じた場合は、埼玉大学基金に寄付する)を行い、承認を得ました。

「閉会のことば」を吉倉清子幹事が行い、五年後の再会を祈念してお開きとなりました。

なお、開催にあたって、開催案内やしおり、名札や席札等を新井良和幹事と岡田謙司幹事

が担当し、会を支えてくれました。教友会のご支援や皆様のご協力に感謝いたします。



卒業四十五周年同窓会

五年後、皆さんとお会いできる日が、
待ち遠しくなりました

埼玉大学教育学部 昭和五十四年三月卒業生 角田 守

私たち(卒業生五四三名)の同窓会は、今回が三回目です。初回は、平成六年に実施した卒業十五周年記念同窓会で、九十名が集いました。第二回は、平成二十九年十一月開催の退職時期同窓会です。九十三名もの仲間が集い旧交を温めました。そして今回、令和六年十月十九日(土)、ホテルプリランテ武蔵野に五十名が集い、お陰様で盛大に開催することができました。学年理事一同(磯真砂子さん、内田道雄さん、櫻井康博さん、田辺曉己さん、中村健さん、中村敏男さん、角田守)、心から感謝を申し上げます。

受付は、内田さん、田辺さんが担当です。開宴(正午)に先立ち、中村(健)さんから諸連絡、いよいよ開宴。司会は中村(敏)さんと角田です。引き続き中村(健)さんの開会の言葉の後、これまでに鬼籍に入られた仲間を偲んで黙禱を捧げ、ご冥福をお祈りしました。その後、ご来賓の校友会副会長長福島正美様が、ご入場されました。

先ずは、私から学年理事代表挨拶をさせていただきます。

次に、ご来賓の福島様からご祝辞をいただきました。校友会会報 教友第九十四号をご用意いただき、埼玉大学教育学部・校友会のこれまでの歩みについてご説明をいただき、「二〇二四年十一月二十三日(土・祝)埼玉大学ホームカミングデー」についてのご紹介もありました。昨年、金子美智雄先生(本会の前会長で現顧問兼事務局長)が講演された内容を元に作成された年表(縦九十七センチメートル横五メートル)が、教育学部に寄贈されることになったそうです。その披露式も予定されており、奮ってご参加いただければとのことでした。

そして、磯さんの乾杯のご発声の後、いよいよ歓談となりました。以下、主な話題について記します。かつての仲間との近況報告、孫の世話、家庭菜園(畑の広さや作物の種類など)、ご逝去された仲間との懐かしい思い出等々、枚挙に暇がありませんでした。お互いに

旧交を温め、楽しいひとときとなりました。

続いて、一分間スピーチです。テール毎の発表者は、快諾してくださった岡野一平さん、青木光一さん、金澤和春さん、田辺曉己さん、福田寛之さん、岡田直人さん、森真一さんです。大学や教員時代の思い出、定年退職後の日々の暮らし等について、熱く語っていただきました。発表者の皆様へのプレゼントですが、埼玉グッツ(メリンちゃんぬいぐるみ、埼玉タオルハンカチ、一口羊羹等)を購入し、お渡しする際、櫻井さんが簡単な説明を添えました。発表者の皆さん、本当にありがとうございました。

閉会の言葉は田辺さんです。磯さんからは、集合写真撮影の諸注意があり、速やかに撮影も終了し、閉宴となりました。

さて、私たち学年理事七名の同窓会開催に向けての動きを申し上げますと、初顔合わせは、昨年の六月十七日(土)、校友会定期総会が開催されたプリランテ武蔵野でした。総会終了後、同窓会の実施の有無について皆で話し合い、総意により、絶対にやろうということになりました。その後、浦和・川越・大宮で計四回実施した学年理事会でわいわいやりながら、漸くこの日を迎えることができました。

出席者の皆さんから温かい言葉をたくさんいただき、学年理事一同、感無量でございます。

結びに、再会の機会を設けてくださった校友会の皆様へ、深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

五年後の卒業五十周年同窓会により大勢の同窓生が、健康で明るく元気にご出席いただけることを願いつつ、今回の同窓会開催報告とさせていただきます。



卒業四十周年同窓会報告

年年歳歳花相似 歳歳年年人不同

それでも気持ちちは

埼玉大学教育学部 昭和五十九年三月卒業生 吉野 寿一

残暑の令和六年九月八日(日)午後一時、ホテルプリランテ武蔵野二階「サファリア」にて、来賓の教友会副会長 蓮見木予子様をお招きして、卒業四十周年同窓会が開催されました。

退職時の同窓会はコロナ禍の真ただ中で開催ができず、三年後の令和六年に、ようやく今回の卒業四十周年同窓会を実施できましたことに感無量です。

出席者数は三十八名と、卒業十五周年で行いました同窓会とは規模こそ縮小されたものの開催でしたが、お互いに還暦を超え、退職をしてこうして集う同窓生には感謝しありません。

都合で参加できなかった多くの同窓生からもメッセージをいただいていた。四十年もの月日が流れても、こうして母校や卒業生へ向ける気持ちは計り知れないものを感じました。二十代の多感な時期を共に過ごした学友たちの弥栄を願うばかりです。

会が始まる前に、YouTubeの「埼玉大学の今昔」を視聴し

ました。皆さんの記憶にない、進歩している母校埼玉大学の今に驚いている姿も見られました。

その後、本日の記念として集合写真を撮りました。レンズの前の姿は、大学卒業後四十年の貫禄あるものでしたが、皆の表情からは、写真には写らない四十年前の青春の息吹あふれる若々しさを感じました。

開会の言葉の後、若くして逝った学友の冥福を祈り、黙祷を捧げました。

学年代表理事の引間和彦氏のあいさつに続き、教友会副会長 蓮見木予子様からご挨拶を賜りました。教友会の今についてや退職後のご自身のことについてのお話を伺いました。

乾杯の後、大いに旧交を温め、思い出を語り合いました。

会場には、八人掛けの円卓が五卓ありました。席はくじ引きで決めたため、乾杯直後の最初こそ社交辞令的なあいさつで静かな感じではありましたが、盃を重ねるごとに昔を思い出してきたり、意外な繋

がりを確認し合ったりして、段々と賑やかになってきました。

お互いに、専修や専攻は異なっているものの、昔話に花を咲かせたり、現状報告をしたりと、こ

こまでは、卒業十五周年の同窓会と変わりませんでしたが、しかし、お互いに還暦を過ぎた身になると、あそこが痛い、ここ

が悪いと健康状態のことや、いつまで働くか、年金をいつもらうのか、将来への不安など、十五周年

の同窓会では思いもしなかった話題で盛り上がりつつありました。会場では次第に席

が移り変わりし、大いに盛り上がり、時の経つのも忘れるほどでした。

七五三の詞、閉会の言葉と、あつという

間の二時間半でした。次回、卒業四十五周年同窓会での再会を約束し、小雨の煙るそれぞれの帰路へと向かっていきました。結びに、「卒業四十周年同窓会」



へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆様に深く感謝申し上げます。本会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

卒業三十周年同窓会

同じ教室で四年間一緒に学んだ
クラスメートのような同窓会

埼玉大学教育学部 平成六年三月卒業生 細村 一彦

令和六年九月十四日(土)、ブリランテ武蔵野において、平成六年三月卒業の埼玉大学教育学部三十周年同窓会が開催されました。今から十五年前の平成二十一年に大学卒業十五周年同窓会を開催した後、二回目の同窓会となりました。

校友会名簿で確認しますと、平成六年三月の教育学部卒業生は、六一五名でした。しかし、令和六年五月現在、連絡可能な方は一九一名(案内郵送後、約二十通が宛先不明として戻ってきました)しかおらず、何名の出席があるか不安でした。

出欠確認については、申し込み締め切り日まで二カ月の期間を取り、尚且つ、申し込みしやすいようにQRコードを使用したのですが、出席者は学年理事を含め十七名でした。ありがたいことに、遠くは、香港から参加された方がいらっしゃいました。

参加者が十七名しかいませんでしたので、開催して良いのかといった不安な気持ちでしたのですが、同窓会当日は、再会を喜ぶ歓声が

上がり、会場全体が学生時代にタイムスリップしたような雰囲気となりました。

開会に先立っての記念撮影後、司会の下妻淳志幹事の開会の言葉で開宴しました。

続いて、御来賓である校友会副会長の大澤利彦様から御祝辞をいただきました。御祝辞のなかで、私たちが大学在学中の世相等の資料を御用意いただき、当時を振り返るきっかけになりました。また、校友会として会員相互の親睦を図り、本会の目的達成に向けて「卒業五X周年同窓会」を開催できるように取り組んでおり、まさに本日がその会の一つであることも話されました。

次に、神田卓也幹事による乾杯の発声により、すぐに気分は学生当時に戻り、和やかな懇談が始まりました。テーブルごとに青春を謳歌しているかのような笑顔や笑い声があふれていました。

参加者が十七名でしたので、急遽、一人一言のスピーチをいただくことにしました。学生時代の懐

かしい思い出、今だから言えること、授業中や教授のエピソード、大学卒業後から現在までの様子、子育て、近況等について、お一人お一人が笑顔で楽しそうに懐かしさをかみしめながら話されていたことが印象的でした。スピーチを

聞いている方々からは「そうだったな」「懐かしいな」と言った声が上がりました。懐かしさで全員がスピーチを終えることができませんでした。十七名の教科専修や専攻は違いますが、また、当初初めてお会いした方もいましたが、同じ教室で四年間一緒に学んだクラスメートのような感覚が生まれました。

御来賓の大澤利彦様からは、「全員がスピーチでき、とても雰囲気の良い同窓会ですね。」とお褒めのお言葉をいただくことができました。参加人数が少なくても、同窓会を開催して良かったと思える瞬間でした。

懇談後、杉澤肇幹事の締めにより、盛大に同窓会が開きとなりました。帰る際には、参加者の皆様から「ありがとう」の言葉をたくさんかけていただくことができました。幹事冥利に尽きました。

今後、卒業五X周年同窓会を企画する幹事の方への引継ぎです。出欠確認にQRコードを利用したのは負担削減になりました。メールアドレスを入力する項目は必

須です。直前まで参加者と容易に連絡を取り合うことができました。



会計報告を期間限定のウェブ公開としたことも負担軽減になりました。会計報告は、急遽欠席者が出る場合もあり、事前の作成が難しく、全て確定した後の発送は負担軽減やペーパーレス化を図ることができました。

結びになりますが、校友会事務局の皆様、ブリランテ武蔵野のスタッフの皆様、参加していただいた皆様に感謝申し上げます。卒業三十周年同窓会の報告とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

卒業十五周年同窓会

十五年ぶりに「大学生」に戻った同窓会 〜むつめ祭とBe-PLANT 12h〜

埼玉大学教育学部 平成二十一年三月卒業生 岸本 航司

令和六年十一月二十四日(日)、埼玉大学むつめ祭及び大学前のレストラン「Be-PLANT」にて、平成二十一年三月卒業生の「卒業十五周年同窓会」を開催しました。第一部・第二部延べ二十三人にご参加いただきました。

コロナ禍もあり、なかなか同期の仲間との連絡もつきにくくなっていた中ですが、せっかくの機会ですので、参加される方が少しでも大学時代を懐かしく思い出すとともに、新たな交流と活力を生み出せるような会になるように、学年幹事一同、アイデアを出し合いながら準備を進めました。

教友会にもご協力いただき、はがきでの案内状を送らせていただいた他、様々な手段で同窓生の皆様にご案内をさせていただきました。当日のご都合が合わない方もいらっしやいました。そういつた方々からも、幹事への労いや次回を楽しみにされるメッセージをいただき、嬉しく思いました。

第一部の「むつめ祭参加」は、さすががしく晴れ渡った秋らしい



天気の中で行われました。コロナ禍も落ち着き、大学生の皆さんの笑顔と活気にあふれる大学構内。むつめ祭実行委員の多彩な企画や様々な部活動やサークル等の発表や模擬店などがありました。私たちも、大学内の思い出の場所を、切り抜かれた写真のヒントをもとに巡るオリエンテーリングを行いました(幹事企画)。昔と変わらな

ない場所もあれば、初めて見る施設や記念樹、作品などに驚かされる所もありました。大学生時代の気持ちに戻りながら、懐かしい話にも花が咲き、あつという間の二時間となりました。最後は裏千家茶道部の茶会にて、趣深い時間を皆で楽しみました。

第二部は、大学時代の思い出のレストラン「Be-PLANT」を特別に半貸し切りにさせていただきました。学生時代に憧れと特別感を感じていたこの店で、久しぶりに会う仲間とともに時を過ごすことはとても嬉しく、感慨深い時間となりました。

ご来賓として、教友会副会長の

石田耕一様にご臨席いただきました。石田先生は私たちが大学三・四年生のときに教職支援室にてご指導いただいた先生でもあり、当時のことも振り返りながら、埼玉大学の移り変わりについて様々なお話をいただきました。教育とは何か、改めて原点を考えるきっかけもいただきました。

お互いの顔がよく見える座席でしたので、自己紹介や近況報告なども一人一人行うことができ、様々な縁やつながりを感じることも多々ありました。懐かしい大学時代の話、むつめ祭のできごと、子育てや仕事の悩みや楽しみ、埼玉大学クイズや豪華記念品の数々、「Be-PLANT」のおいしい食事とともに楽しい時間を過ごしました。

最後に記念撮影をしてお開きとなりました。ちなみに参加者でライングループを作り、それぞれが第一部、第二部で撮影した写真を共有しました。画像とともに、同窓会で仲間と語り合った楽しい思い出をお持ち帰りいただきました。幹事としては、この同窓会がきっかけとなって、同期の皆様との縁が再び結ばれ、繋がっていたいくことを願っています。

結びに、「卒業十五周年同窓会」へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆様に深く感謝申し上げます。本会の益々のご発展を

お祈り申し上げます。

なお、少額ではありますが、「埼玉大学基金」に残金を寄附させていただきましたことも含め、同窓会報告とさせていただきます。皆様、ありがとうございます。



令和六年度 教友会事業報告

新型コロナウイルス感染症も五類に移行し、円滑に事業を実施できるようになりました。

I 本部署常任委員会を開催

五月十一日(土)、教育学部附属教育実践総合センターで、清水章夫顧問をはじめ、本部署役員・幹事が出席して開催することができました。(出席者 二十四名)

総会に向けた準備となる議事を中心に審議が行われ、議案はすべて可決されました。

II 教友会定期総会を開催

六月十五日(土)午後二時から、ホテルブリランテ武蔵野にて開催しました。

真夏を思わせる暑い日でしたが、多くのご来賓にご出席いただき、本部署役員・学年理事等八十一名の参加により、盛大に開催できました。

令和五年度の事業報告、決算報告を初め、令和六年度の事業計画・予算案の審議が行われ、議事内容はすべて承認されました。

なお、卒業五X周年同窓会関係では、令和七年度に開催予定の学年の学年理事に対して、開催の予告及び開催にあたっての説明を行いました。

また、会報「教友」を、今後五年間紙ベースでの送付を希望するかどうかのアンケートの結果も報告されました。

●会報「教友」の発送数

- ・卒業生終身会員八千五百三十一名のうち、郵送を希望する方は、千二百七十五名
- ・学生終身会員七百八十六名のうち、郵送を希望する方は五十五名

合計千三百三十名となり、今後五年間送付することになりました。その後は、すべてホームページでの公開となります。

「教友」は、教友会のホームページにも公開しておりますので、いつでも、どこでも見たり印刷したりできます。

III 教員採用試験対策

これまで対面で実施してきた寄附講座は、コロナ禍の関係で中止し、時事通信社のDVDを視聴していただくように進めてきました。

しかし、DVDの購入費用は高額であり、終身会費で購入しておりますので、終身会員のみが視聴できるように改めました。

今年、内容を入れ替え、合計で百一本のDVDをスマホから直接視聴できるように改めました。そのため、百一本のDVDにそれぞれQRコードを付け、DVDとQRコードのセットのテキストを作成し、終身会員に送付しました。

テキストの作成と送付には、多くの時間を費やしましたが、一人

でも多くの学生が教員採用試験に合格して欲しいという先輩からの希望を込めたものとなりました。

主な内容

- ・教職教養
- ・一般教養
- ・小学校各教科
- ・中・高の教科内容
- ・教職面接
- ・教職論文作文 など

ら選択して視聴可能です。※一般の方は、アクセスできません。

IV 教員採用試験模擬個人面接の実施

大学の主催で、教友会の教員OB・OGを面接員として開催している模擬個人面接を、七月十七日から十九日にかけて実施しました。延べ十五人の面接員にご協力をいただき、学生は延べ百八十名の参加がありました。

V 学生終身会員に「終身会員カード」を送付

本年四月に入会した学生は、二百十七名でした。この学生に対して「終身会員カード」と、「教友第九十四号」を送付しました。

「終身会員カード」は、附属学校園で開催される研究協議会等に学生として参加する際必要となり、入会者には特典があります。

また、入会者には、教員採用試験対策DVDのQRコード付きテキストを送付しました。

VI 埼玉大学の歴史年表を寄贈

する講演会資料をもとに、歴史年表「埼玉県改正局・埼玉県師範学校から埼玉大学へ」を制作し、寄贈しました。

併せてパワーポイントによる動画もセットにして公開しました。※詳しくは、二十六〜二十七ページを参照。

VII 卒業五X周年同窓会への支援

- 卒業五十五年 昭和四十四年 卒
代表 野口 淳一 学年理事
- 卒業五十周年 昭和四十九年 卒
代表 瀧澤 重博 学年理事
- 卒業四十五周年 昭和五十四年 卒
代表 角田 守 学年理事
- 卒業四十周年 昭和五十九年 卒
代表 引間 和彦 学年理事
- 卒業三十周年 平成六年 卒
代表 細村 一彦 学年理事
- 卒業十五周年 平成二十一年 卒
代表 岸本 航司 学年理事

VIII 教友会ホームページを一部改訂

教友会のホームページでは、様々な記事を公開しております。これまで「事務局からのお知らせ」に、「会報『教友』発刊のお知らせ」や「総会の終了報告」などを公開してきました。

このたび、トップページの見出しを一部改訂しました。

令和6年度 教友会(埼玉大学教育学部同窓会)定期総会 報告

・日 時 令和6年6月15日(土) 14:00~16:00

・会 場 ホテルブリランテ武蔵野 サファイア

司 会	引間 和彦	次長
	大澤 利彦	副会長
	松澤 勇治	会 長
代表	清水 章夫	顧 問
市町村支援部	部 長 吉田 勇	様
学校教育部	次 長 丹 能成	様
学部長	戸部 秀之	様

1 開会のことば

2 あいさつ ○会 長

○顧 問

3 来賓祝辞 ○埼玉県教育局

○さいたま市教育委員会

○埼玉大学教育学部



清水章夫
顧問



吉田 勇
部長



丹 能成
次長



戸部秀之
学部長

4 議 事 (議長：会則第10条により会長)

- (1) 令和5年度 事業報告について.....以下 金子美智雄 事務局長
- (2) 令和5年度 一般会計・特別会計 決算報告について
- (3) 令和5年度 会計監査報告.....岡田 謙司 監 事
- (4) 令和6年度 役員について

※本年度は、役員改選の年ではありませんが、一部変更

○会長より委嘱(紹介)

顧問・正副会長・監事・本部常任委員・幹事・事務局・学年理事

○挨拶 退任役員 櫻井 康博 副 会 長 (挨拶・花束贈呈)

吉倉 清子 本部常任委員 (挨拶・花束贈呈)

新 役 員 高瀬 浩 本部常任委員

清水 隆 本部常任委員

(5) 令和6年度 事業計画について

(6) 令和6年度 予算について

(7) その他

①卒業5X周年同窓会について

・令和6年度開催を計画している学年(6学年)

・令和7年度開催を予定している学年(12学年)

②今後の会報「教友」の発行計画について

・令和5年度(第94号)以降、原則として総てホームページに公開する。

・第95号以降については、希望者にのみ送付する。(5年間)

・紙ベースでの送付を希望する終身会員 約1,330名

※議事は、提案どおりすべて承認されました。

5 その他

(1) 埼玉大学ホームカミングデー2024について

・令和6年11月23日(土)午後1時 会場 大久保キャンパス

(2) 教員採用試験対策—教職オンライン講座—について

松澤 勇治 会 長

蓮見木予子 副会長

6 閉会のことば



埼玉大学ホームカミングデー二〇二四

埼玉大学・埼玉大学同窓会 共催

埼玉大学祭「むつめ祭」期間中の令和六年十一月二十三日(土)に「埼玉大学ホームカミングデー二〇二四」が開催されました。当日は、「歓迎会・講演会」に先立ち、教育学部の「学部イベント」として、「埼玉大学創基百五十周年記念年表披露式」が行われました。

○埼玉大学創基百五十周年記念年表(〜埼玉県改正局・埼玉県師範学校から埼玉大学へ)披露式
会場 教育学部A棟二階エデュスポ



年表の除幕

戸部秀之教育学部長、池内真知子主幹、教友会会員出席のもと、年表披露式が行われました。松澤勇治教友会会長のあいさつの後、除幕が行われ、学部長あいさつ、作成者の金子美智雄氏のあいさつ並びに年表の解説がありました。



年表の解説をする金子美智雄氏

(年表については、二十六〜二十七ページに詳しく解説があります。)

○歓迎会・講演会

会場 全学講義棟1号館301講義室
歓迎会では、埼玉大学同窓会井上直也会長のあいさつ、学長代理の石井昭彦理事からあいさつ及び埼玉大学の取組について、教育・

研究・運営面から報告がありました。また、埼玉大学の歩みと展望について『埼玉大学 統合報告書二〇二四』として公表しているとお話がありました。続いて、特別講演が行われました。

演題 「X線天文衛星XRISM(クリズム)の開発と国際拠点連携」

講師 大学院理工学研究科物質科学部門 田代信 教授

JAXA XRISMプロジェクト研究主宰者



講演する田代信教授

なぜX線で宇宙を見るのか、X線観測には人工衛星が必要なこと、さらに、XRISM(クリズム)の開発における埼玉大学の貢献、超新星残骸の観測などについてお話をいただきました。「宇宙を観測するのはなぜか」は、「我々はどこからきたのか」という問い

に対する答えであり、「我々は星から生まれた だから我々は星を見る」から来ていることも、ゴーギャンの絵とともに印象に残りました。

○懇親会 会場 第一食堂



あいさつする松澤会長

各学部同窓会長あいさつ、歓談、学生表彰がありました。藤巻公裕名誉教授、清水誠名誉教授にもご参加いただき、参加者は昔話に花を咲かせていました。



懇親会での歓談

本年度の教友会事業より 「埼玉大学創基百五十周年記念年表」 寄贈

一 年表披露式

○期日 令和六年
十一月二十三日(土)

○式場 教育学部A棟二階
エデュスポ

○式次第

- 一 開式の辞
- 二 松澤会長 挨拶
- 三 除幕
- 四 戸部学部長 挨拶
- 五 作成者(金子顧問) 挨拶
- 六 閉式の辞



◇除幕◇



◇年表と作成者の金子顧問◇

二 年表作成の経緯

埼玉大学ホームカミングデー二〇二三において「埼玉大学創基百五十周年」を記念する特別講演が企画され、教友会金子美智雄顧問に講演の依頼がありました。タイトルは、「埼玉県改正局・埼玉県師範学校から埼玉大学へ」。

明治六年旧埼玉県庁内(元浦和本陣)に改正局を設置してから令和五年には、創基百五十周年を迎えました。

金子顧問は、埼玉大学に關係する各種の記念史や現地に足

を運んで集めた資料等をもとに二百数十枚のパワーポイントを作成・印刷・配付しての講演で、大変好評でした。(講演要旨は、教友第九十四号、二十六〜二十八ページ参照)

その後「あの資料を記念に残せないか」という要望が各方面からあり、埼玉大学創基百五十周年の年表として残すことになりました。

埼玉大学開学七十年の時には、「埼玉大学同窓会」から埼玉大学に対して年表の寄贈を行いました。この年表は埼玉大学図書館の一階に掲示されております。

三 年表の構成

創基百五十周年記念の歴史年表は三段構成となっており、中央の段は主な出来事と関係する人物、上の段は校舎・建造物などの写真、下の段は出来事の解説からなるもので、縦幅九十センチメートル、横幅五メートルの大作となっております。

さらに、補説の写真が年表の上と下に十数枚掲示されましたので五段式の年表となります(次ページ写真参照)。

設置場所は、教育学部A棟二階エデュスポです。第二代埼玉県令白根多助が百四十五年前に著作した扁額の隣の壁になります。

四 埼玉県改正局の設置、師範学校の開校から鳳翔へ

明治五年に学制が頒布され、その直後に埼玉県師範学校の開校を申し出たのは、時の県令野村盛秀でした。しかし、文部省が許可しなかつたため、一歩下がって県庁内に改正局の設置を申請、これは直ちに許可となりましたが、明治政府から派遣されたのは、薩摩藩・長州藩を中心にした士族でした。

ことに肥後(熊本県)出身の清浦奎吾と野村の後を継いだ第二代県令白根多助は、埼玉県の教育に尽力された方でした。白根は師範学校の規模の拡大を目指して現在の埼玉会館の地に新校舎を建設。明治天皇行幸の際、行在所として視察に見えたのが時の太政大臣三條實美。三條は「何と素晴らしい校舎、鳳が翔びたつが如し、まるで御殿の様」と称賛。そして、「鳳翔閣」と命名されました。時の県令白根多助は「教化風光文奎照」という扁額を掲げ、明治天皇をお迎えしたと言われています。

白根多助は県立の「医学校」も開設しましたが、第一回県議会会で否決され、廃校となりました。

五 紆余曲折を経て開学した埼玉大学

昭和二十二年三月三十一日の国会において、教育基本法と学校教育



◇埼玉大学創基150周年を記念する年表(年表部分 縦幅90cm 横幅500cm)◇

育法が發布され、小・中学校は昭和二十二年四月から、高校は二十三年、大学は二十四年四月から開校・開学と決まりました。

埼玉県においては昭和十八年に埼玉師範学校、十九年には埼玉青年師範学校が官立となり、すでに官立として開学していた浦和高等学校は大学昇格に向けて、それぞれ違う道を模索していました。ことに浦和高等学校は東京大学のジュニアコースとしての道を目指していました。

しかし最終的には国の一県一大学の方針によりすべて否決。埼玉大学の開学に尽力したのが初代学長となる新関良三でした。浦和高等学校の教員の人事異動もほぼ決まっていたが「東大に行きたい人は行つてくれ、埼玉に残つてもよい人は残つて欲し

い」と説得され、大多数の教員は埼玉大学に留まり文理学部を設置に貢献されました。

最終的には埼玉師範学校と埼玉青年師範学校が教育学部に昇格、旧制浦和高等学校が文理学部となり、昭和二十四年五月三十一日の国会で議決・承認され、国立埼玉大学が誕生することになりました。



◇教友会役員・学年理事・大学関係者との記念撮影◇

六 大久保への移転と学部改組

埼玉大学は昭和二十四年に開学してから約十年後、大宮市議会から工学部の設置を要望され、これを皮切りに、「浦和市・埼玉県・埼玉大学・文部省」による工学部の設置と

学部改組の検討が開始されました。最終的には土地の交換となり、浦和高等学校の地、北浦和キャンパスは埼玉県と浦和市(現さいたま市)、埼玉師範学校の地、常盤キャンパスは浦和市の所有となり、そして埼玉大学は大久保の地への移転が決まり、校舎建築・移転と学部改組が同時進行的に開始されました。その後、平成十六年、国立埼玉大学は「国立大学法人埼玉大学」と法人化され、現在に至っています。

七 年表の内容をパワーポイントの動画で解説・公開

さらに、年表にQRコードを付けて、パワーポイントの動画解説も視聴できることになり、披露式で公開されました。

これもYouTubeにて動画配信することになりましたので、外部からもアクセス可能です。

●下のQRコードからアクセス可能です。また、「YouTube・埼玉大学創基百五十周年記念」でもアクセス可能です。

●「埼玉大学の今昔」については下のQRコード及び「YouTube」



「You Tube」でアクセス可能です。



卒業^{エックス}5X周年同窓会 開催等案内



1 卒業5X周年同窓会について

教友会(埼玉大学教育学部同窓会)では、会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与するため、いろいろな事業を実施してきました。

教友会では、これまで埼玉大学卒業15周年を記念する同窓会と退職時期(還暦のころ)同窓会を主催し、教友会が運営費を補助したり会長が挨拶に伺ったりしてきました。

令和2年度からは、**教育学部卒業(院修了を含む)後、5年ごとに学年同窓会を開催できるように事業の見直しを行いました。**

卒業5X周年同窓会についての内規

埼玉大学教育学部(大学院を含む)を卒業・修了した者は、卒業後5年ごとに、学年同窓会を開催することができ、教友会から運営費等の補助を受けることができる。

開催は、別紙「卒業5X周年同窓会開催年一覧表」によることとするが、**開催の前年に各学年理事は開催の有無を事務局に報告することとする。**(ただし、開催は義務付けるものではない)

開催の有無、当日の運営等は、すべて該当学年で進める。

○学年理事の氏名は、教友会の会報及び教友会ホームページに掲載する。

○「卒業5X周年同窓会開催年一覧表」も教友会のホームページに掲載し、広く知らせるように努める。

※次の年度に同窓会の開催順にあたる学年理事の方は、開催要項を配付しますので、総会に出席願います。
 ※学年理事の方が極めて少ない学年があります。学年理事を希望する方は、記載の学年理事を通して申し込みをしてください。また、現在の学年理事等及び事務局からお願いをする場合もあります。

2 同窓会実施該当年

	大学卒業後	年齢(目安)
・卒業5周年同窓会	大学卒業後6年め	(28歳)
・卒業10周年同窓会	大学卒業後11年め	(33歳)
・卒業15周年同窓会	大学卒業後16年め	(38歳)
⋮		
・卒業50周年同窓会	大学卒業後51年め	(73歳)
・卒業55周年同窓会	大学卒業後56年め	(78歳)

※1年間に、11学年から12学年の割合で開催することになります。

※ただし、「退職時期同窓会」については、退職年齢が2023年度(令和5年度)に61歳に延長され、その後2年に1歳ずつ延長され、2031年度(令和15年度)には65歳まで延長されることとなりますので、それに合わせた時期になります。そして、2031年度以降の退職時期同窓会は66歳での開催となります。

※卒業35周年同窓会、退職時期同窓会、卒業40周年同窓会のうち、どの時期で開催するかについては、学年理事会でお決めください。そのとき、3年以上間が空くようにしてください。

3 同窓会開催のための手順

(1) 該当学年の学年理事に、「来年度、教友会卒業5X周年同窓会の該当学年にあたること」をお知らせします。学年理事は可能なかぎり教友会総会に出席してください。

○開催年度は、次頁「卒業5X周年同窓会開催年一覧表」となります。

*原則として開催年度を変更することはできません。

※この事業は、令和2年度から開催する予定でした。しかし、コロナ禍にあって、令和2年度、3年度開催予定の学年は開催を令和4年度まで延長可能としてきましたが、令和4年度に開催できなかった場合には、すべてをリセットして、次頁の一覧表にしたがって開催していただくようにいたしました。

(2) 該当年に開催するかどうかは、学年の理事でお決めください。

(3) 開催予定会場と連絡をとり、開催日を決定、会場予約をしてください。

・学年同窓会開催場所候補地

○ホテルブリランテ武蔵野(JR京浜東北線 さいたま新都心駅)

○埼玉大学生協(埼玉大学 大久保キャンパス内)

※その他、さいたま市内の会場で計画してください。

(4) 「開催計画書」を教友会事務局に送付してください。

○前年の12月末日までに、学年の理事でお決めください。

※開催を見送る場合も、事務局にお知らせください。

(5) 事務局は開催計画書を受領後、学年理事の方に次のものをお渡しします。

○通信用の費用として 封筒・切手代等及び印刷費用

○開催学年の個人の宛名シール(原則として「令和3年度版会員名簿」に住所が記載されている方の分)

※会員なのに宛名シールが届かない方は、会員名簿に「電話・住所掲載不可」か、住所の変更届がなく、住所が不明になっている方です。参加を希望する場合は、該当学年理事に連絡してください。

○学年同窓会の運営補助として合計で最大15万円程度の支援をします。

(6) その後の手続き及び当日の運営等は各学年の理事でお進めください。

4 同窓会開催後、報告書の作成

会報「教友」に掲載…原稿(1ページ程度)と写真を用意願います。

開催計画書等 送付先

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤6-9-44

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター内

教友会(埼玉大学教育学部同窓会)事務局 事務局長 金子美智雄

● FAX 048-767-8703

● E-mail kyoyuukai.saitama@gmail.com

※事務局には、事務局員が常駐しておりません。ご連絡等はメールか、FAX または教友会ホームページ「お問い合わせ」からお願いします。

卒業^{エックス}5X周年同窓会 開催年一覧表

教友会 令和7年2月15日

●卒業5X周年同窓会は、下記の表のように実施することとします。開催予定の前年に、開催するかどうかを検討してください。

※(見方)昭和56年3月卒業の人は、令和8年度に卒業45周年となる。

●令和8年度の開催予定の学年は以下の通りで、昭和46年3月卒、昭和51年3月卒…令和3年3月卒業の学年理事の方は、令和7年中に学年同窓会開催の有無の検討をし、事務局に報告をしてください。

卒業5X周年	令和8年度 2026年	令和9年度 2027年	令和10年度 2028年	令和11年度 2029年	令和12年度 2030年	備考
5周年	令和3年3月卒	令和4年3月卒	令和5年3月卒	令和6年3月卒	令和7年3月卒	卒業後 初回
10周年	平成28年3月卒	平成29年3月卒	平成30年3月卒	平成31年3月卒	令和2年3月卒	
15周年	平成23年3月卒	平成24年3月卒	平成25年3月卒	平成26年3月卒	平成27年3月卒	
20周年	平成18年3月卒	平成19年3月卒	平成20年3月卒	平成21年3月卒	平成22年3月卒	
25周年	平成13年3月卒	平成14年3月卒	平成15年3月卒	平成16年3月卒	平成17年3月卒	
30周年	平成8年3月卒	平成9年3月卒	平成10年3月卒	平成11年3月卒	平成12年3月卒	退職年齢延長により 2023年度~61歳 2025年度~62歳 2027年度~63歳 2029年度~64歳 2031年度~65歳 となる予定。
35周年	平成3年3月卒	平成4年3月卒	平成5年3月卒	平成6年3月卒	平成7年3月卒	
退職時期	—	昭和62年3月卒	—	昭和63年3月卒	—	
40周年	昭和61年3月卒	昭和62年3月卒	昭和63年3月卒	平成元年3月卒	平成2年3月卒	
45周年	昭和56年3月卒	昭和57年3月卒	昭和58年3月卒	昭和59年3月卒	昭和60年3月卒	
50周年	昭和51年3月卒	昭和52年3月卒	昭和53年3月卒	昭和54年3月卒	昭和55年3月卒	
55周年	昭和46年3月卒	昭和47年3月卒	昭和48年3月卒	昭和49年3月卒	昭和50年3月卒	原則として最終

●地方公務員の退職年齢は、2023年度から31年度まで、2年に1歳ずつ段階的に引き上げることになりました。

●卒業35周年、退職時期、卒業40周年同窓会を開催するにあたっては、いずれかの時期で開催願います。ただし3年以上間が空くように計画してください。

令和6年度 教友会 役員名簿 令和6年5月11日

役職	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年	氏名	課程	卒年
顧問	戸部 秀之	学部長		清水 章夫	中	昭30	岩佐正二郎	中	昭37	金子美智雄	小	昭43
会長	松澤 勇治	小	昭50									
副会長	蓮見木予子	小	昭49	大澤 利彦	小	昭52	福島 正美	小	昭58	石田 耕一	中	昭58
監事	木村 栄二	小	昭47	岡田 謙司	中	昭49	市村 和子	小	昭51			
本部常任委員	岡本 健	小	昭33	大塚 彰	小	昭48	野口 英世	中	昭50	野口 忠	小	昭50
	秋本 文子	中	昭53	長谷河初男	小	昭53	高瀬 浩	小	昭53	清水 隆	小	昭57
幹事	高橋 太一*	附中・副長		山本 孔紀	附中・主幹		神谷 直典	附小・副長		塩盛 秀雄	附小・主幹	
事務局	金子美智雄	事務局長		引間 和彦	事務局次長		(※幹事長)					

教友会 学年理事名簿(学年毎 五十音順) 令和6年5月11日改訂

卒業年	氏名							
昭43	新井 功	稲葉 昭一	加藤 忠邦	金子美智雄	本田重次郎			
44	石井 昇	長嶋美知子	野口 淳一					
45	加々美健一	野原 晃	藤間 文隆					
46	大熊 光治	大塚 基司	丸山 綱男					
47	石田 拓喜	木村 栄二	久保忠太郎	清水 誠				
48	大岡 由男	大塚 彰	神山 則幸	小林 博武	齋藤 一雄	武田 誠	富田 法昭	
49	新井 良和	岡田 謙司	小川 詠二	小川 良雄	相馬 優子	瀧澤 重博	蓮見木予子	
	吉倉 清子							
50	井上 馨	梅山 健司	小谷野健史	野口 忠	野口 英世	平賀 健郎	松澤 勇治	
51	市村 和子	内田 明	平澤 香	若手三喜雄				
52	大澤 利彦	金澤 清久	関 好子	野津千恵子	千島 力夫	服部 純一	馬場 和久	
	山崎 和恵							
53	秋本 文子	高瀬 浩	長谷河初男	馬場 弘昭	山口 哲司	山本 耕司		
54	磯 真砂子	内田 道雄	角田 守	櫻井 康博	田辺 暁己	中村 健	中村 敏男	
55	田村 俊一	守屋 敏夫	吉田 睦代					
56	加藤 修	加藤 美幸	武井 悟	野口 久男	野村 剛	長谷川 博	山口 謙一	
57	清水 隆	松本 浩						
58	石田 耕一	関 克則	福島 正美	山田 晋治				
59	坂田 真澄	引間 和彦	真武 公司	吉野 寿一	小山久仁子			
60	安部 恭子	新井 宏	來嶋実樹子	嶋 徹	杉田 勝弘	中野 浩義	平沼 智	
	森 裕子							
61	肥土 耕一	石井 宏明	金子 正	長江 清和				
62	安藤 義仁	五十嵐和彦	木村 浩	竹田 聡	中西 健二			
63	石崎 明子	伊藤 秀一	影山 葉子	高野 桂子	田島 孝志	福島みどり	本荘 真	
	吉田 元							

卒業年	氏名						
平成元	石原 博之	駒崎 弘匡	馬場 敏男	引間 陽子			
2	浅見 哲也	井上 雅史	筒井 陽子	椿 智絵	長島クミ子	山根 淳一	
3	牛久 裕介	上園竜之介	岸田 健吾	高野 達	野口 高志		
4	栗原 敏枝	白石徳一郎	野口千津子				
5	……………						
6	神田 卓也	下妻 淳志	杉澤 肇	細村 一彦			
7	大井 敏彰	塩崎 陽子					
8	古賀 玲香	馬場 雅史	綿貫 功				
9	八坂 和典						
10	新井 飛鳥	五十嵐 淳	岡田 大助	川西 浩之			
11	……………						
12	浅井 大貴	佐藤 太一	高橋容史子	二瓶 剛	橋本 慎也		
13	安藤 栄信	興野 邦孝	平井 悠一				
14	野口 勝義	松下 洋介	三浦 直行				
15	武久 浩之	森田 哲史	矢島 弘一				
16	杉山 直樹	南 登志正					
17	岩田 信之	島田 直也	仙石 大吾	高橋 太一	松村 洋彦	若村 健一	
18	笠原 俊	森川 大地	山本 孔紀	吉野 竜一			
19	内田 敦子	塩盛 秀雄	渡邊はるか				
20	五十嵐 巧	石高 吉記	坂井 貴文	杉山 愛	谷津 勇太	吉田みゆき	
21	大関さわ子	岸本 航司	関口 泰広				
22	阿部 健作	石原 良介	肥田 幸則	吉田 真梨			
23	藤田 明人						
24	安藤 健太						
25	……………						
26	内田貴美子						
27	三橋 博道	國料 樹					
28	大野 洋嗣	萩原 綾乃	関口 雄太	橋本 柊平	山本 恭平	渡邊 涼太	
29	七五三木侑乃						
平成30	丸山 貴宏						
31/令和1	秋元 祥広	山岸 実桜					
2	池上 直毅	池淵 大樹	栗原 美沙	榊原 裕也			
3	岸 拓実	中村 優希	平野 幸奈				
4	田端 優一	三浦 脩	吉田 敏康				
5	天貝 光寿	小林 悠人	関 綸太郎	森山 紗帆			
6	塚本 晃大	橋本 廉士	逸見 友花	鈴木 佑実			

※学年理事の任期は、卒業55周年同窓会開催の次の年度をもって、終了とさせていただきます。

※学年理事を追加したい場合には、ご本人の承諾をいただいた後、卒業年・氏名・住所・電話番号等を学年理事を通じてご連絡ください。確認のうえ委嘱いたします（メールかFAXで、お願いいたします）。

事務局だより



●住所等変更がありました時には「内容変更」を

住所変更等登録内容に変更がありましたら、登録変更をお願いします。一度住所不明になりますとその後の連絡がとれなくなりません。

教友会のホームページ「住所等登録内容の変更」からお願ひします。

●紙ベースでの会報の送付について

これまで終身会員の皆様には毎年「教友」を送付してまいりました。昨年度発行の「教友」から全面的にホームページに公開することとなり、会員の方には「送

付を希望するか否か」をお伺ひし、希望する方には、今後五年間送付することといたしました。

会報「教友」については、教友会のホームページ「会報「教友」」から見たたり印刷したりすることも可能です。

また、「事務局からのお知らせ」では、教友会の主な事業の紹介をしておりま

す。

教友会のホームページへは、「教友会・埼玉大学」か、下のQR

コードからもアクセス可能



編集後記

「教友第九十五号」をお届けいたします。

今号では、我が教育学部の同窓生である日吉亨県教育長様からは、埼玉教育の現状と動向、そして未来に向けてのビジョンを、新たに就任された戸部秀之学部長様からは、新しい教育学部組織再編やカリキュラム改革に関する内容等を、それぞれご多用の中、玉稿をお寄せいただき、厚く御礼申し上げます。

「同窓生の広場」には、様々な年代層の皆様から貴重な原稿をお寄せいただき、互いの交流の一助になることを願っております。また「キャンパスライフ」では、現在のサークルやゼミの様子を紹介していただきました。特に教師を目指す皆様には、「模擬個人面接を通して」や「先輩へのアドバイス」を生かしていただきたいと思います。

本会の一大事業である「卒業五X周年同窓会」も軌道に乗り、今年度は、六学年で開催され、各年代に応じた話題で盛り上がり、大いに親睦を深められたよう

です。そして、今年度のホームページ「会報」の学部イベントでは、本会顧問の金子美智雄氏作成の「埼玉大学創基百五十周年記念年表」の披露式が開催されました。これまでの動画作成や講演等の集大成となるもので、多くの文献を読み解かれ、幾度となく現地に足を運ばれ、四年余りをかけて仕上げられた大作です。機会がありましたら、ぜひ大学で、実際の年表をご覧ください

末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



令和7年度 予定

◎総会 ◇令和七年六月二十一日(土)午後二時三十分から(予定)

◇於 ホテルプリランテ武蔵野

◎卒業五X周年同窓会

◇詳しくは、本誌 二十八・二十九ページ 参照

◎埼玉大学ホームカミングデー 十一月下旬(予定)

◇於 埼玉大学 (さいたま市桜区下大久保)

◇申し込み 埼玉大学ホームページに掲載(予定)

埼玉大学からのお願い ～埼玉大学基金への協力のお願ひ～

埼玉大学では、「埼玉大学基金」を設け、皆様からのご寄附をいただき、種々の事業を進めております。

具体的には、**埼玉大みらい基金・冠奨学金基金・修学サポート基金**です。

本年度も、多くの団体や個人の方々からご寄附をいただきました。卒業五X周年同窓会様からもご寄附をいただきました。埼玉大学ホームページ「埼玉大学基金・ご寄附いただいた方々」にアクセスいただけますと、ご覧いただけます。

心から御礼申し上げますとともに、今後ともよろしくお願ひいたします。

発行所

発行者 教友会(埼玉大学教育学部同窓会)
事務局 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター内
事務局長 金子美智雄

〒三三〇一〇〇六一 さいたま市浦和区常盤六一九一四四

FAX 〇四八(七六七) 八七〇三

E-mail: kyoyuukai.saitama@gmail.com

印刷所 望月印刷株式会社

〒三三〇一〇八五四 さいたま市大宮区桜木町

一一一九五一 大宮ソラミチK.O.Z 十一階

電話 〇四八(七四一) 九三〇〇

FAX 〇四八(六四一) 五〇〇五